

科目名	児童学概論		
担当教員名	坪倉 紀代子、赤井 美智子、大宮 明子、平田 智久 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、卒業必修科目である。入学後初めに学習する基礎科目であり、これからの4年間の幼児教育学科での学習の領域を概観するような内容となっている。学科専任教員各自の専門領域や研究内容を知るといった性格も持っている。

科目の概要

児童学への入口となるオムニバス形式の科目である。本年度は“文化について考える”というテーマをもとに、本学幼児教育学科専任教員が各自の専門的観点から「子どもと文化」について講義し、学びの対象となる子どもへの興味関心を喚起する。

学修目標

- ・これまで持ってきたであろう一般的な「子ども」のイメージを一度突き崩して、多面的に子どもについて探求する。
- ・「子ども」という窓から、世の中の枠組み、身の回りの人間関係・出来事などについて見つめ直す。
- ・各講義担当者について各自が作成した「講義ノート」が主要テキストとなるので、授業の内容をつかみ、ノートにまとめを整理する。
- ・授業への参加、課題への取り組み、ノートの作成などを通して、大学で講義を受けるための基本的なスキルを身につける。

内容

1	野口：科目の目的や趣旨、内容、各教員の専門等の説明
2	横井：「文化の違い」とは何か
3	赤井：「外遊び文化について考える」
4	山田：「子どもに伝えたい伝承遊び ～鬼ごっこを中心に～」
5	上垣内：「生活文化と子どもの遊びのリアリティ」
6	鈴木：「面白味の文化 子ども時代の絵本とおとな時代の絵本」
7	平田：「造形の立場から・・・乳幼児の異文化性」
8	長田：「子どもの目から見た世界：子どもにとっての文化」
9	大宮：「幼児とメディア：幼児はテレビゲームから何を学ぶのか？」
10	向井：「乳児期の親子関係から文化について考えてみる」
11	斎藤：「喫煙とは昔は文化、現在は病気に」
12	金勝：「家庭における音楽文化」
13	坪倉：「“からだと運動”を巡る文化について」
14	野口：「子どもと文化について考える」まとめ
15	試験

評価

各担当教員の課題への取組み（50％） 試験（50％）

合格点に満たなかった場合には「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各担当教員が講義の中で、参考図書を紹介や資料の配布を行う予定です。

科目名	児童学演習		
担当教員名	長田 瑞恵、上垣内 伸子、横井 紘子、鈴木 晴子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は教職免許および保育士資格の取得上の必修科目となっている。実習を通じて、乳幼児とかかわりを持ちながら学習を進めていく。実習という体験学習を通して、自ら関わりつつ子どもから学ぶ姿勢を確立する。

科目の概要

最初の実習となる1年次の児童学演習では、子どもが育つ様々な現場に実際に出かけ、現代社会の中での保育・育児および子どもの生活の実態を知る。さらに、実習の事前指導・事後指導において、保育に関する現代的課題について調査研究活動を行い、1年次履修の他の専門科目を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。

学修目標

1. 実習を通して、保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。
2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。
3. 実習体験に加え、実習の事前指導・事後指導を通して、問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。
4. 1年次履修の専門科目との関連を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を修得したことを確認する。

内容

新座市内および周辺地域の、さまざまな保育および子ども支援サービスの場の見学実習を行う。具体的には、就学前の子どもの日中の保育の場である幼稚園および保育所や、保育と育児に関連する場の見学実習を行う。

学校教育としての保育

- ・幼稚園 (本学附属幼稚園)

児童福祉施設での保育

- ・保育所 (新座市立保育所)

児童厚生施設等での健全育成事業

- ・児童センター
- ・子育てサロン (公民館等)

その他

実習の前後には、事前学習や事後の報告発表や話し合いの時間を持ち、子どもと子育てを取り巻く社会状況の理解および子ども理解を深める一助とする。さらに、実習の事前・事後学習を通して、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を取得する。

評価

実習のレポートや発表 (50%)、実習および事前事後学習への参加状況 (50%) を総合して評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

最新保育資料集(2011) ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育方法		
担当教員名	山田 陽子、岩崎 禎子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育方法は愛育養護学校での実習を中心に据えて行います。この実習は、3・4年次で行う幼稚園教諭や保育士資格取得を目的とする実習とは異なり、子ども理解を中心テーマとし、保育者としての姿勢やまなざしを獲得していくための基礎となる実習です。幼児教育学科の卒業必修科目であり、資格取得の有無にかかわらず、全員の履修が求められます。同じく2年次に行われる「幼児教育基礎実習」と同様に、子どもから学ぶことを学修の基礎に置く、幼児教育学科の教育特徴をよくあらわしている科目といえます。

実習の目的は、保育の中で幼児及び児童と実際にかかわり、共に遊ぶ中で、一人ひとりの子どもの心理、人間関係、状況に応じてその場で自分自身で考えて行動していくことを通して、子ども理解を深めること、および保育社を目指す存在としての自己理解を深めることを目的とします。

内容

1、学内での事前指導

愛育養護学校の理事長先生の講義を受けます。主な内容は次の2点です。

愛育養護学校とはどんな学校なのか、学校の歴史・教育で一番大切にしていることなどを
知り、理解します。

愛育養護学校の学校の様子、子どもや保育者の生活の姿、保育の展開などの話を聞く中で、実習の心構えについて学びます。

2、愛育養護学校での実習内容

・期間は1日で参加実習です。実施日は5月から翌年の3月までの期間内でほぼ火曜日です。幼稚部、小学低学年・中学年・高学年のいずれかに入り、担当する子どもを決めて行います。

・保育終了後は、引き続き愛育養護学校にて配属クラスの担任保育者および現地実習者と、その日の保育についてのミーティングに参加します。

・実習レポートを作成し、翌日大学に提出します。

3、学内での事後指導

実習後は、20人程度の規模での話し合いを中心とした事後指導を行います。内容は次の2点です。

3～4人の小グループで互いの経験とそのことを通して自分が感じ取った事柄を報告し合い、感想や意見を交わすことで、実習での学びを共有します。

実習前と実習後での自分自身の内にある保育についての変化や障碍のある子どもへの捉え方の変化を記述し、全体で意見を交流する中で、各自の中にある保育への理解や子ども理解を広げていきます。

4、まとめ

愛育養護学校での保育実践の体験を元にしなが、子ども理解と保育について全員で考え、学びを深めます。

評価

実習および事前事後指導を含めた授業への参加状況、レポート提出を基に総合的に評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】佐藤学監修 著者代表津守眞・岩崎禎子『学びとケアで育つ 愛育養護学校の子ども・教師・親』小学館

科目名	幼児教育基礎実習		
担当教員名	横井 紘子、山田 陽子、上垣内 伸子、野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園において参加観察実習を行う。幼児教育学科の必修科目である。

本学附属幼稚園を含む10 数園の幼稚園に分かれ、隔週で週1 回の実習を行う。実習の翌週は、実習レポートを基に、「幼児教育基礎演習」において話し合いをもち、次回の実習へとつなげていく。春休みには4日間連続の実習を行い、3 年次から始まる幼稚園教諭および保育士資格取得のための実習へのスムーズな移行を目指し、保育者としての視点獲得と行動を実習の中で試みる。

保育の中で幼児と実際に関わり、一人一人の子どもの心理、人間関係、状況に応じてその場で考え行動していくことを通して、子ども理解および保育者を目指す存在としての自己理解を深めていくことを目的とする。

内容

1. 隔週での幼稚園参加観察実習

子どもの主体的活動を中心とした保育を展開し、本学科教員と保育実践の共同研究等を行ってきている幼稚園10 数園に数人ずつに分かれて配属され、隔週で週1 回、登園前から降園後まで1 日の実習を3 日行う。

実習翌日までにレポートを作成して提出し、翌週には各自のレポートを基に行う演習に参加する。

2. 幼稚園連続実習

後期の授業終了後に4 日間の連続実習を行う。これまで実習していたクラスで4 日間連続の実習を行い、子どもの遊びや友だち関係、内面を生活の連続性の中で理解していくことを目指す。

実習後にレポートを作成して提出し、総括の話し合いをもつ。

実習につき、15回の授業ではなく、集中となる。

第7週頃：1 日：幼稚園にて学外オリエンテーション / 保育見学・保育参加

第8～14週頃：3 日：幼稚園にて隔週の実習（登園から降園まで1日）

春休み中：4 日：幼稚園にて4日間連続の実習

合計58時間の幼稚園での実習となる。

評価

1. すべての実習への参加と、実習日誌の期限内に提出を、単位取得の必要条件とする。

2. 実習参加状況、実習態度および意欲、レポート内容、話し合いへの参加状況等により総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)

科目名	幼児教育基礎演習		
担当教員名	横井 紘子、山田 陽子、上垣内 伸子、野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園での参加観察実習を行う「幼児教育基礎実習」の事前事後指導という位置づけで、実習事前事後指導と、実習の翌週に、20人規模での話し合いの演習を行う。幼児教育学科の必修科目である。

自らの保育実践をレポートにし、省察する中で、自分自身の関わりのあり方や子どもの内的世界に対する理解を深め、子ども理解と自らの保育行為とのつながりの実際を追体験し確認していくための授業である。

自分たちの保育記録を基に、少人数でじっくり話し合うことを通して、それぞれが保育における自己課題を見だし、互いに啓発しあい支え合いながら、保育者としての資質をのばしていくことを目指す。

内容

1. オリエンテーション / 事前指導

実習の目的・内容等についての学内での事前指導および、実習園での園長・主任・担任による実習のオリエンテーションを受ける。

2. 隔週での幼稚園参加観察実習後の話し合い

実習の翌週は、各自の保育記録を基に、約20人のグループに分かれて、自分たちの保育実践の中からテーマをあげて話し合う。

確実な保育記録レポート提出と、活発な話し合いへの参加が望まれる。

3. 幼稚園連続実習の事前事後指導

隔週での幼稚園実習で学んだことを確認し、新たな自己課題を設定し、連続実習に向けての準備を行う。

実習後は、各自の保育記録を基に、4日間の中での自分の保育者としての成長を確認し、新たに見いだした保育課題などについての話し合いを行い、実習を総括する。

評価

授業への参加状況、実習日誌や課題の提出および内容、話し合いへの参加状況を6:2:2の比率で評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)

科目名	幼児教育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目としての位置付けられて、これから学習していく「幼児教育・保育」領域の基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得し、過去から現代に至る幼児教育・保育の思想、方法の概略を理解し、保育のあるべき方向の考察ができるようにする。乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育の目的と目標、保育のねらいと内容、保育方法、保育の環境、保育計画・教育課程、保育評価についての具体的理解に基づき、保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

学修目標

- ・ 保育の基本的理解を目的とする。
- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・ 保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

内容

1	保育とは何か
2	保育の歴史
3	乳幼児の生活と発達
4	子どもと遊び
5	保育所保育指針・幼稚園教育要領の制度的位置づけと成立および変遷
6	保育の目的と目標
7	保育のねらいと内容
8	保育の環境
9	保育方法の原理
10	保育活動と保育形態
11	保育指導計画と保育・教育課程
12	保育者の役割と保育実践
13	家庭・地域との連携
14	世界の保育・幼児教育
15	保育の今日的課題と未来への保育ビジョン

評価

授業への参加態度や発言（30%）、学期内の小レポート・小テスト（30%）、学期末試験（40%）により評価を行う。
合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】関口はつ江他『保育原理 - 実践的幼児教育論 - 』建帛社

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

最新保育資料集2011 ミネルヴァ書房

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

科目名	幼児教育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目としての位置付けられて、これから学習していく「幼児教育・保育」領域の基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得し、過去から現代に至る幼児教育・保育の思想、方法の概略を理解し、保育のあるべき方向の考察ができるようにする。乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育の目的と目標、保育のねらいと内容、保育方法、保育の環境、保育計画・教育課程、保育評価についての具体的理解に基づき、保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

学修目標

- ・ 保育の基本的理解を目的とする。
- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・ 保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

内容

1	保育とは何か
2	保育の歴史
3	乳幼児の生活と発達
4	子どもと遊び
5	保育所保育指針・幼稚園教育要領の制度的位置づけと成立および変遷
6	保育の目的と目標
7	保育のねらいと内容
8	保育の環境
9	保育方法の原理
10	保育活動と保育形態
11	保育指導計画と保育・教育課程
12	保育者の役割と保育実践
13	家庭・地域との連携
14	世界の保育・幼児教育
15	保育の今日的課題と未来への保育ビジョン

評価

授業への参加態度や発言（30%）、学期内の小レポート・小テスト（30%）、学期末試験（40%）により評価を行う。
合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】関口はつ江他『保育原理 - 実践的幼児教育論 - 』建帛社

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

最新保育資料集2011 ミネルヴァ書房

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

科目名	教育学		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に掲げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義及び、保育士資格の「保育の本質・目的に関する科目」の「教育原理」を含む講義を行います。これから四年間にわたって教職科目や保育誌科目を受講していくもっとも最初の時期に「学幾・保育の基礎を学ぶ科目」をして開講されます。

先生になるために最小限必要となる教育の歴史や理論に関する基礎を勉強することになります。講義では「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目に従って取り上げます。

教育の基礎理論に関して理解を深めること、仲間とともに課題を設定し、討論し合いながら研究を深めること、自己の見解を整理し、深め、発表することができること、をめあてとします。

内容

以下、講義内容を項目ごとに書いておきます (順不同)。

テキストの構成とほぼ重なっています。

- 第1回：人間への問いと教育への問い (第1章1)
- 第2回：学ぶことと教えること (第1章2)
- 第3回：発達への助成的介入 (第1章3)
- 第4回：教育と教化と形成 (第1章4)
- 第5回：学校の登場 (第2章1)
- 第6回：近代学校の性格 (第2章2)
- 第7回：近代以前の日本の学校 (第3章1)
- 第8回：日本の「近代化」と学校教育 (第3章2)
- 第9回：新たな出発，その後の展開 (第3章3)
- 第10回：人は学び続ける (第10章1)
- 第11回：地球市民として生きるために (第10章2)
- 第12回：子どもの権利の発見 (第12章1)
- 第13回：子どもの成長・発達をめぐる状況と子どもの「最善の利益」 (第12章2)
- 第14回：社会の変化と教育政策の動向 (第12章3)
- 第15回：まとめ

評価

ミニレポート (20点) と最終課題 (80点) を総合して、単位を認定します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【使用テキスト (教科書) 】田嶋一他著『やさしい教育原理 (新版補訂版) 』有斐閣アルマ

【推薦書】ルソー『エミール（改版）上』岩波文庫、シング『狼に育てられた子』福村出版

【参考図書】留岡清男『教育農場50年』岩波書店、谷昌恒『ひとむれ』評論社

科目名	保育制度・保育政策論		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育制度・政策は子どもを取り巻く社会の変化によって変わってくる。本科目は、保育制度・政策の歴史の変遷を学び、幼児教育に関する具体的内容・方法の理論を的確に理解するための基盤を築くことを目的とする。

科目の概要

保育について法や政策の観点からみることは、実際の社会的現実のなかで就学前教育が果たしている役割に目を向けることである。本授業では、保育制度の成り立ちについて、歴史の変遷、制度の背景にある社会的要請と保育観を踏まえながら、就学前教育の基本的課題について多角的かつ総合的に考察する。

学修目標

- 1 教育の基礎理論に関する科目として、保育制度・政策の動向を理解する。
- 2 保育制度の仕組みや社会的背景について認識を深め、現代の就学前教育を考察する視点を得る。

内容

- 第1回：今日における子どもの育ちについて考える
- 第2回：社会的営みとしての就学前教育 - わが国における保育制度の仕組み
- 第3回：幼児教育の歴史的系譜 幼稚園の誕生
- 第4回：幼児教育の歴史的系譜 保育所の誕生
- 第5回：幼児教育の歴史的系譜 就学前教育としての「幼児学校」
- 第6回：日本における幼稚園の誕生と制度の発展
- 第7回：教育基本法の基本理念と内容
- 第8回：教育基本法の改正及び教育関連法の改正
- 第9回：学校教育法について 教育法規にみる学校の位置づけ
- 第10回：学校教育法について 無償性と義務性
- 第11回：幼稚園教育要領の変遷と保育所保育指針
- 第12回：子どもの最善の利益を保障する教育環境
- 第13回：欧米諸国に見る近年の保育改革と保育政策
- 第14回：日本における近年の保育改革と保育政策の動向
- 第15回：まとめ

評価

授業への取り組み20%、課題提出30%、試験50%によって評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

<参考図書>

解説教育六法編集委員会『解説 教育六法』三省堂

子ども保育総合研究所『最新保育資料集』ミネルヴァ書房

科目名	保育制度・保育政策論		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

保育制度・政策は子どもを取り巻く社会の変化によって変わってくる。本科目は、保育制度・政策の歴史の変遷を学び、幼児教育に関する具体的内容・方法の理論を的確に理解するための基盤を築くことを目的とする。

科目の概要

保育について法や政策の観点からみることは、実際の社会的現実のなかで就学前教育が果たしている役割に目を向けることである。本授業では、保育制度の成り立ちについて、歴史の変遷、制度の背景にある社会的要請と保育観を踏まえながら、就学前教育の基本的課題について多角的かつ総合的に考察する。

学修目標

- 1 教育の基礎理論に関する科目として、保育制度・政策の動向を理解する。
- 2 保育制度の仕組みや社会的背景について認識を深め、現代の就学前教育を考察する視点を得る。

内容

- 第1回：今日における子どもの育ちについて考える
- 第2回：社会的営みとしての就学前教育 - わが国における保育制度の仕組み
- 第3回：幼児教育の歴史的系譜 幼稚園の誕生
- 第4回：幼児教育の歴史的系譜 保育所の誕生
- 第5回：幼児教育の歴史的系譜 就学前教育としての「幼児学校」
- 第6回：日本における幼稚園の誕生と制度の発展
- 第7回：教育基本法の基本理念と内容
- 第8回：教育基本法の改正及び教育関連法の改正
- 第9回：学校教育法について 教育法規にみる学校の位置づけ
- 第10回：学校教育法について 無償性と義務性
- 第11回：幼稚園教育要領の変遷と保育所保育指針
- 第12回：子どもの最善の利益を保障する教育環境
- 第13回：欧米諸国に見る近年の保育改革と保育政策
- 第14回：日本における近年の保育改革と保育政策の動向
- 第15回：まとめ

評価

授業への取り組み20%、課題提出30%、試験50%によって評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<参考図書>

解説教育六法編集委員会『解説 教育六法』三省堂

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は障害のある子どもを、保育所や幼稚園および療育施設で保育しています。障害のある子どもへの保育はその子どもをかけがえのない存在としてとらえ、その子らしく成長していくために必要な指導・援助を行うという意味において、基本は障害のない子どもの保育と同じです。この授業では、障害のある子どもに心から出会い、保育するための構えを作ります。

科目の概要

障害のある子どもにとってふさわしい保育ができるようになるために、障害児保育の歴史や現状を知り、さまざまな障害と保育についての知識を持ち、障害のある子どもと共に生きている他の子ども達や家族とのつながりへの配慮や援助のあり方を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解する
- ・障害のある子どもとそうでない子どもが共に育ち合うための保育の方法を理解する
- ・障害児保育は保育者として各自が必ず取り組む保育であることを認識する

内容

1	障害児保育の目的
2	障害児保育の歴史
3	障害のある子どもの保育・療育施設での生活と保育
4	保育者の基本姿勢と保育実践の展開
5	さまざまな障害と保育（1）知的障害
6	さまざまな障害と保育（2）視覚障害・聴覚障害
7	さまざまな障害と保育（3）運動障害
8	さまざまな障害と保育（4）自閉性障害
9	さまざまな障害と保育（5）LDとADHD
10	障害児保育の現状と課題（1）保育所・幼稚園
11	障害児保育の現状と課題（2）療育施設
12	障害のある子どもとそうでない子どもとの育ち合いへの援助
13	障害のある子どもの両親や兄弟への援助
14	障害のある子どもに対する学校教育
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（40点）と最終週の試験（50点）、さらに通常の授業態度（10点）を加味して総合的に評

値します。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は障害のある子どもを、保育所や幼稚園および療育施設で保育しています。障害のある子どもへの保育はその子どもをかけがえのない存在としてとらえ、その子らしく成長していくために必要な指導・援助を行うという意味において、基本は障害のない子どもの保育と同じです。この授業では、障害のある子どもに心から出会い、保育するための構えを作ります。

科目の概要

障害のある子どもにとってふさわしい保育ができるようになるために、障害児保育の歴史や現状を知り、さまざまな障害と保育についての知識を持ち、障害のある子どもと共に生きている他の子ども達や家族とのつながりへの配慮や援助のあり方を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解する
- ・障害のある子どもとそうでない子どもが共に育ち合うための保育の方法を理解する
- ・障害児保育は保育者として各自が必ず取り組む保育であることを認識する

内容

1	障害児保育の目的
2	障害児保育の歴史
3	障害のある子どもの保育・療育施設での生活と保育
4	保育者の基本姿勢と保育実践の展開
5	さまざまな障害と保育（1）知的障害
6	さまざまな障害と保育（2）視覚障害・聴覚障害
7	さまざまな障害と保育（3）運動障害
8	さまざまな障害と保育（4）自閉性障害
9	さまざまな障害と保育（5）LDとADHD
10	障害児保育の現状と課題（1）保育所・幼稚園
11	障害児保育の現状と課題（2）療育施設
12	障害のある子どもとそうでない子どもとの育ち合いへの援助
13	障害のある子どもの両親や兄弟への援助
14	障害のある子どもに対する学校教育
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（40点）と最終週の試験（50点）、さらに通常の授業態度（10点）を加味して総合的に評

値します。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は障害のある子どもを、保育所や幼稚園および療育施設で保育しています。障害のある子どもへの保育はその子どもをかけがえのない存在としてとらえ、その子らしく成長していくために必要な指導・援助を行うという意味において、基本は障害のない子どもの保育と同じです。この授業では、障害のある子どもに心から出会い、保育するための構えを作ります。

科目の概要

障害のある子どもにとってふさわしい保育ができるようになるために、障害児保育の歴史や現状を知り、さまざまな障害と保育についての知識を持ち、障害のある子どもと共に生きている他の子ども達や家族とのつながりへの配慮や援助のあり方を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解する
- ・障害のある子どもとそうでない子どもが共に育ち合うための保育の方法を理解する
- ・障害児保育は保育者として各自が必ず取り組む保育であることを認識する

内容

1	障害児保育の目的
2	障害児保育の歴史
3	障害のある子どもの保育・療育施設での生活と保育
4	保育者の基本姿勢と保育実践の展開
5	さまざまな障害と保育（1）知的障害
6	さまざまな障害と保育（2）視覚障害・聴覚障害
7	さまざまな障害と保育（3）運動障害
8	さまざまな障害と保育（4）自閉性障害
9	さまざまな障害と保育（5）LDとADHD
10	障害児保育の現状と課題（1）保育所・幼稚園
11	障害児保育の現状と課題（2）療育施設
12	障害のある子どもとそうでない子どもとの育ち合いへの援助
13	障害のある子どもの両親や兄弟への援助
14	障害のある子どもに対する学校教育
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（40点）と最終週の試験（50点）、さらに通常の授業態度（10点）を加味して総合的に評

値します。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は障害のある子どもを、保育所や幼稚園および療育施設で保育しています。障害のある子どもへの保育はその子どもをかけがえのない存在としてとらえ、その子らしく成長していくために必要な指導・援助を行うという意味において、基本は障害のない子どもの保育と同じです。この授業では、障害のある子どもに心から出会い、保育するための構えを作ります。

科目の概要

障害のある子どもにとってふさわしい保育ができるようになるために、障害児保育の歴史や現状を知り、さまざまな障害と保育についての知識を持ち、障害のある子どもと共に生きている他の子ども達や家族とのつながりへの配慮や援助のあり方を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解する
- ・障害のある子どもとそうでない子どもが共に育ち合うための保育の方法を理解する
- ・障害児保育は保育者として各自が必ず取り組む保育であることを認識する

内容

1	障害児保育の目的
2	障害児保育の歴史
3	障害のある子どもの保育・療育施設での生活と保育
4	保育者の基本姿勢と保育実践の展開
5	さまざまな障害と保育（1）知的障害
6	さまざまな障害と保育（2）視覚障害・聴覚障害
7	さまざまな障害と保育（3）運動障害
8	さまざまな障害と保育（4）自閉性障害
9	さまざまな障害と保育（5）LDとADHD
10	障害児保育の現状と課題（1）保育所・幼稚園
11	障害児保育の現状と課題（2）療育施設
12	障害のある子どもとそうでない子どもとの育ち合いへの援助
13	障害のある子どもの両親や兄弟への援助
14	障害のある子どもに対する学校教育
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（40点）と最終週の試験（50点）、さらに通常の授業態度（10点）を加味して総合的に評

値します。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に、子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係を的確に捉えることとで、より幅広い学習を目指す。

内容

- 1 教育の目的と方法
- 2 教育課程の類型：教科主義と開発主義
- 3 カリキュラムの構成要素
- 4 教育方法の歴史的変遷 (1) 教科主義的カリキュラムと教育方法
- 5 教育方法の歴史的変遷 (2) 経験主義的カリキュラムと教育方法
- 6 教育方法の歴史的変遷 (3) 近代の教育カリキュラムと教育方法
- 7 わが国における教育方法の歴史的変遷
- 8 いろいろな教授法 (1) 学習集団と教授法
- 9 いろいろな教授法 (2) 教材開発と教具の利用
- 10 いろいろな教授法 (2) 新しい教授法
- 10 学習指導の技術
- 11・12 学習指導要領の変遷 (1) 歴史的変遷
- 13 学習指導要領の変遷 (2) 現行指導要領の特徴
- 14 世界のカリキュラム改革
- 15 まとめ

プレゼンテーションにあわせた資料プリントを毎回配布する。

毎時間課題プリントを実施する。

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 授業ごとの課題提出 (30%)
- 2 最終試験の達成度 (70%)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

初回の授業で指示する

科目名	教育方法		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に、子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係を的確に捉えることとで、より幅広い学習を目指す。

科目の概要

現代の教育現場で実践されている教育方法の基礎理論について、歴史的見解から学ぶとともに、教育機器の活用や教材開発、および現代の教育課題への対応についても具体的な事例に基づいて取り扱う。

学修目標

- ・教育方法の歴史的変遷から、幼児教育の特性と具体的な指導の在り方について学ぶ。
- ・教育機器、教材、教具の活用などを中心に、実践的な知識と技能を養う。
- ・様々な教育課題に対応するための基礎知識を獲得する。

内容

- 1 教育の目的と方法
- 2 カリキュラムの構成要素、幼稚園教育要領の特徴と教育方法
- 3 教育方法の歴史的変遷
- 4 わが国における教育方法の歴史的変遷
- 5 いろいろな指導方法 (1) 一斉指導と個別指導
- 6 いろいろな指導方法 (2) 新しい指導方法の開発
- 7 いろいろな指導方法 (3) 教材開発と教具の利用
- 8 学級集団と学級経営
- 9 教育機器の活用
- 10 情報化への対応
- 11 障害への配慮、特別支援教育の視点
- 12 教育評価の理論と実際
- 13 教育課題への対応 (1) 幼小の連携・交流の具体的方法
- 14 教育課題への対応 (2) 多文化社会への配慮と方策
- 15 まとめ

評価

授業への取り組みと課題提出 (50%)、最終試験の達成度 (50%) で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特に定めない

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 保育士資格に必要とされる専門科目である。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めるための「乳児保育」の科目の基盤となる。

科目の概要 この科目は3歳未満児を保育対象とする科目である。子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後のこの時期にどのような保育を受けるかということが、子どもの育ちに大きく影響する。故に乳児保育は最も重要な時期を対象とすることになる。乳児保育は、保育所保育指針解説書において「生命の保持」とともに「情緒的な絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となった。授業では、まずこの点について学ぶ。また「職員の資質向上」も告示化の対象となっていることを踏まえ、乳児保育において必要な基礎知識を学習し、より専門的な視点で子どもにかかわることができるような授業内容である。

学習目標 現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識、保育者のあり方を身につけていくことを目標とする。

内容

1	乳児保育オリエンテーション
2	乳児保育の実際 乳児期の子どもの姿
3	乳児保育の実際 乳児保育のデイリープログラム
4	乳児保育の意義 現代の社会環境 乳児保育の必要性
5	乳児保育の0歳児クラスの特徴及び保育配慮
6	保育指針における乳児保育
7	母子関係及び自主性の発達課題と乳児保育
8	コミュニケーションの発達（保育者と乳児のかかわり）
9	運動発達と乳児保育（新生児反射～粗大運動発達を中心に）
10	生活リズム（睡眠覚醒・摂食・排泄・活動性リズム）とデイリープログラムにおける配慮
11	遊びの発達と保育
12	保護者との連携
13	乳児クラスの指導計画及び個人記録の書き方
14	総合学習
15	まとめ

評価

積極的な講義参加を期待する。毎講義終了時に質問や感想・意見等を書く時間をとり、翌週にそれらに対応しながら、次の課題へとすすめていく。講義は一方的なものではなく、お互いに作り上げていくものと考えている。講義に臨む積極性

も評価対象の考慮とする。

正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の総合学習試験による。出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。毎回のコメント20%、小レポート10%、テスト70%により評価を行い、合格点に満たない場合は再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】監修帆足英一／帆足暁子他編著 『実習保育学』 日本小児医事出版
子とものとも 012の絵本（該当年度4月号から3月号）12冊 福音館書店

【参考図書】その他の絵本等も含めて適宜紹介。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 保育士資格に必要とされる専門科目である。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めるための「乳児保育」の科目の基盤となる。

科目の概要 この科目は3歳未満児を保育対象とする科目である。子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後のこの時期にどのような保育を受けるかということが、子どもの育ちに大きく影響する。故に乳児保育は最も重要な時期を対象とすることになる。乳児保育は、保育所保育指針解説書において「生命の保持」とともに「情緒的な絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となった。授業では、まずこの点について学ぶ。また「職員の資質向上」も告示化の対象となっていることを踏まえ、乳児保育において必要な基礎知識を学習し、より専門的な視点で子どもにかかわることができるような授業内容である。

学習目標 現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識、保育者のあり方を身につけていくことを目標とする。

内容

1	乳児保育オリエンテーション
2	乳児保育の実際 乳児期の子どもの姿
3	乳児保育の実際 乳児保育のデイリープログラム
4	乳児保育の意義 現代の社会環境 乳児保育の必要性
5	乳児保育の0歳児クラスの特徴及び保育配慮
6	保育指針における乳児保育
7	母子関係及び自主性の発達課題と乳児保育
8	コミュニケーションの発達（保育者と乳児のかかわり）
9	運動発達と乳児保育（新生児反射～粗大運動発達を中心に）
10	生活リズム（睡眠覚醒・摂食・排泄・活動性リズム）とデイリープログラムにおける配慮
11	遊びの発達と保育
12	保護者との連携
13	乳児クラスの指導計画及び個人記録の書き方
14	総合学習
15	まとめ

評価

積極的な講義参加を期待する。毎講義終了時に質問や感想・意見等を書く時間をとり、翌週にそれらに対応しながら、次の課題へとすすめていく。講義は一方的なものではなく、お互いに作り上げていくものと考えている。 講義に臨む積極性

も評価対象の考慮とする。

正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の総合学習試験による。出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。毎回のコメント20%、小レポート10%、テスト70%により評価を行い、合格点に満たない場合は再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】監修帆足英一／帆足暁子他編著 『実習保育学』 日本小児医事出版
子とものもと 012の絵本（該当年度4月号から3月号）12冊 福音館書店

【参考図書】その他の絵本等も含めて適宜紹介。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 保育士資格に必要とされる専門科目である。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めるための「乳児保育」の科目の基盤となる。

科目の概要 この科目は3歳未満児を保育対象とする科目である。子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後のこの時期にどのような保育を受けるかということが、子どもの育ちに大きく影響する。故に乳児保育は最も重要な時期を対象とすることになる。乳児保育は、保育所保育指針解説書において「生命の保持」とともに「情緒的な絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となった。授業では、まずこの点について学ぶ。また「職員の資質向上」も告示化の対象となっていることを踏まえ、乳児保育において必要な基礎知識を学習し、より専門的な視点で子どもにかかわることができるような授業内容である。

学習目標 現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識、保育者のあり方を身につけていくことを目標とする。

内容

1	乳児保育オリエンテーション
2	乳児保育の実際 乳児期の子どもの姿
3	乳児保育の実際 乳児保育のデイリープログラム
4	乳児保育の意義 現代の社会環境 乳児保育の必要性
5	乳児保育の0歳児クラスの特徴及び保育配慮
6	保育指針における乳児保育
7	母子関係及び自主性の発達課題と乳児保育
8	コミュニケーションの発達（保育者と乳児のかかわり）
9	運動発達と乳児保育（新生児反射～粗大運動発達を中心に）
10	生活リズム（睡眠覚醒・摂食・排泄・活動性リズム）とデイリープログラムにおける配慮
11	遊びの発達と保育
12	保護者との連携
13	乳児クラスの指導計画及び個人記録の書き方
14	総合学習
15	まとめ

評価

積極的な講義参加を期待する。毎講義終了時に質問や感想・意見等を書く時間をとり、翌週にそれらに対応しながら、次の課題へとすすめていく。講義は一方的なものではなく、お互いに作り上げていくものと考えている。講義に臨む積極性

も評価対象の考慮とする。

正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の総合学習試験による。出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。毎回のコメント20%、小レポート10%、テスト70%により評価を行い、合格点に満たない場合は再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】監修帆足英一／帆足暁子他編著 『実習保育学』 日本小児医事出版
子とものもと 012の絵本（該当年度4月号から3月号）12冊 福音館書店

【参考図書】その他の絵本等も含めて適宜紹介。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 保育士資格に必要とされる専門科目である。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めるための「乳児保育」の科目の基盤となる。

科目の概要 この科目は3歳未満児を保育対象とする科目である。子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後のこの時期にどのような保育を受けるかということが、子どもの育ちに大きく影響する。故に乳児保育は最も重要な時期を対象とすることになる。乳児保育は、保育所保育指針解説書において「生命の保持」とともに「情緒的な絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となった。授業では、まずこの点について学ぶ。また「職員の資質向上」も告示化の対象となっていることを踏まえ、乳児保育において必要な基礎知識を学習し、より専門的な視点で子どもにかかわることができるような授業内容である。

学習目標 現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識、保育者のあり方を身につけていくことを目標とする。

内容

1	乳児保育オリエンテーション
2	乳児保育の実際 乳児期の子どもの姿
3	乳児保育の実際 乳児保育のデイリープログラム
4	乳児保育の意義 現代の社会環境 乳児保育の必要性
5	乳児保育の0歳児クラスの特徴及び保育配慮
6	保育指針における乳児保育
7	母子関係及び自主性の発達課題と乳児保育
8	コミュニケーションの発達（保育者と乳児のかかわり）
9	運動発達と乳児保育（新生児反射～粗大運動発達を中心に）
10	生活リズム（睡眠覚醒・摂食・排泄・活動性リズム）とデイリープログラムにおける配慮
11	遊びの発達と保育
12	保護者との連携
13	乳児クラスの指導計画及び個人記録の書き方
14	総合学習
15	まとめ

評価

積極的な講義参加を期待する。毎講義終了時に質問や感想・意見等を書く時間をとり、翌週にそれらに対応しながら、次の課題へとすすめていく。講義は一方的なものではなく、お互いに作り上げていくものと考えている。講義に臨む積極性

も評価対象の考慮とする。

正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の総合学習試験による。出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。毎回のコメント20%、小レポート10%、テスト70%により評価を行い、合格点に満たない場合は再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】監修帆足英一／帆足暁子他編著 『実習保育学』 日本小児医事出版
子とものとも 012の絵本（該当年度4月号から3月号）12冊 福音館書店

【参考図書】その他の絵本等も含めて適宜紹介。

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	横井 絃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目である。

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していく。さらに、生活リズムや基本的な生活習慣を身につけること、安全に生活することが健康的な生活の基盤となっていることを理解し、現状と課題、援助の方法についても探究していきたい。また、新幼稚園教育要領・新保育所保育指針において食育についての内容が明記された。食べることは健康に欠くことができないものであり、乳幼児期の子どもが食べる喜びや楽しさを感じることで、適切な食習慣を形成することなどの重要性、食をめぐっての保育内容・方法についても実践的に考えていきたい。

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身につける。

内容

1	領域「健康」とは何か	健康の定義を探る
2	領域「健康」とは何か	領域「健康」の歴史的変遷
3	心の安定と園生活	入園期の子どもの不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは
4	心の安定と園生活	不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携
5	身体機能の発達と遊び	発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き
6	身体機能の発達と遊び	自然との触れ合い / 戸外での遊び
7	身体機能の発達と遊び	遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助
8	生活リズム・生活習慣	子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達
9	生活リズム・生活習慣	園における援助のあり方 / 家庭との連続性
10	生活の場としての幼稚園・保育所	子どもが自ら生活の場を整えること
11	安全管理と健康管理	園生活で起こる事故とその対応 / 設備の点検
12	安全管理と健康管理	安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識
13	食生活と健康	子どもの食習慣 / アレルギーへの対応
14	食生活と健康	食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育
15	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）

評価

平常点 20点 課題（小レポート）30点 期末レポート50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館

(他に毎回プリント資料を配布します)

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	横井 絢子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目である。

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していく。さらに、生活リズムや基本的な生活習慣を身につけること、安全に生活することが健康的な生活の基盤となっていることを理解し、現状と課題、援助の方法についても探究していきたい。また、新幼稚園教育要領・新保育所保育指針において食育についての内容が明記された。食べることは健康に欠くことができないものであり、乳幼児期の子どもが食べる喜びや楽しさを感じることで、適切な食習慣を形成することなどの重要性、食をめぐっての保育内容・方法についても実践的に考えていきたい。

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身につける。

内容

1	領域「健康」とは何か	健康の定義を探る
2	領域「健康」とは何か	領域「健康」の歴史的変遷
3	心の安定と園生活	入園期の子ども不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは
4	心の安定と園生活	不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携
5	身体機能の発達と遊び	発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き
6	身体機能の発達と遊び	自然との触れ合い / 戸外での遊び
7	身体機能の発達と遊び	遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助
8	生活リズム・生活習慣	子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達
9	生活リズム・生活習慣	園における援助のあり方 / 家庭との連続性
10	生活の場としての幼稚園・保育所	子どもが自ら生活の場を整えること
11	安全管理と健康管理	園生活で起こる事故とそれに対する対応 / 設備の点検
12	安全管理と健康管理	安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識
13	食生活と健康	子どもの食習慣 / アレルギーへの対応
14	食生活と健康	食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育
15	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）

評価

平常点 20点 課題（小レポート）30点 期末レポート50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館
(他に毎回プリント資料を配布します)

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	横井 絢子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目である。

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していく。さらに、生活リズムや基本的な生活習慣を身につけること、安全に生活することが健康的な生活の基盤となっていることを理解し、現状と課題、援助の方法についても探究していきたい。また、新幼稚園教育要領・新保育所保育指針において食育についての内容が明記された。食べることは健康に欠くことができないものであり、乳幼児期の子どもが食べる喜びや楽しさを感じることで、適切な食習慣を形成することなどの重要性、食をめぐっての保育内容・方法についても実践的に考えていきたい。

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身につける。

内容

1	領域「健康」とは何か	健康の定義を探る
2	領域「健康」とは何か	領域「健康」の歴史的変遷
3	心の安定と園生活	入園期の子どもの不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは
4	心の安定と園生活	不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携
5	身体機能の発達と遊び	発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き
6	身体機能の発達と遊び	自然との触れ合い / 戸外での遊び
7	身体機能の発達と遊び	遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助
8	生活リズム・生活習慣	子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達
9	生活リズム・生活習慣	園における援助のあり方 / 家庭との連続性
10	生活の場としての幼稚園・保育所	子どもが自ら生活の場を整えること
11	安全管理と健康管理	園生活で起こる事故とその対応 / 設備の点検
12	安全管理と健康管理	安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識
13	食生活と健康	子どもの食習慣 / アレルギーへの対応
14	食生活と健康	食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育
15	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）

評価

平常点 20点 課題（小レポート）30点 期末レポート50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館

(他に毎回プリント資料を配布します)

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	横井 絢子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目である。

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて生活したり遊んだりすることの重要性について考えを深め、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や、指導の実際について具体的に考察していく。さらに、生活リズムや基本的な生活習慣を身につけること、安全に生活することが健康的な生活の基盤となっていることを理解し、現状と課題、援助の方法についても探究していきたい。また、新幼稚園教育要領・新保育所保育指針において食育についての内容が明記された。食べることは健康に欠くことができないものであり、乳幼児期の子どもが食べる喜びや楽しさを感じることで、適切な食習慣を形成することなどの重要性、食をめぐっての保育内容・方法についても実践的に考えていきたい。

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身につける。

内容

1	領域「健康」とは何か	健康の定義を探る
2	領域「健康」とは何か	領域「健康」の歴史的変遷
3	心の安定と園生活	入園期の子ども不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは
4	心の安定と園生活	不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携
5	身体機能の発達と遊び	発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き
6	身体機能の発達と遊び	自然との触れ合い / 戸外での遊び
7	身体機能の発達と遊び	遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助
8	生活リズム・生活習慣	子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達
9	生活リズム・生活習慣	園における援助のあり方 / 家庭との連続性
10	生活の場としての幼稚園・保育所	子どもが自ら生活の場を整えること
11	安全管理と健康管理	園生活で起こる事故とその対応 / 設備の点検
12	安全管理と健康管理	安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識
13	食生活と健康	子どもの食習慣 / アレルギーへの対応
14	食生活と健康	食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育
15	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）

評価

平常点 20点 課題（小レポート）30点 期末レポート50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館

(他に毎回プリント資料を配布します)

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていけるような環境作りを考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、自然環境のみならず、人・物・事象と子どもとの関係を理解する。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

- 第1回：概説：保育における「環境」とは
- 第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「環境」とその変遷
- 第3回：子どもの発達と環境：乳児期
- 第4回：子どもの発達と環境：幼児期、児童期
- 第5回：遊びと環境
- 第6回：具体的事物との関わり、人的環境としての保育者の役割
- 第7回：子どもと自然
- 第8回：生活環境における文字、数量、情報
- 第9回：園の行事と子どもの経験
- 第10回：保育者の環境構成
- 第11回：保育計画と記録、省察
- 第12回：子どもを取り巻く現代社会と環境
- 第13回：子ども・家庭と保育・幼児教育の場
- 第14回：世界の保育・幼児教育
- 第15回：総括

評価

授業時の課題提出やコメントペーパーによる平常点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『環境』 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていけるような環境作りを考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、自然環境のみならず、人・物・事象と子どもとの関係を理解する。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

- 第1回：概説：保育における「環境」とは
- 第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「環境」とその変遷
- 第3回：子どもの発達と環境：乳児期
- 第4回：子どもの発達と環境：幼児期、児童期
- 第5回：遊びと環境
- 第6回：具体的事物との関わり、人的環境としての保育者の役割
- 第7回：子どもと自然
- 第8回：生活環境における文字、数量、情報
- 第9回：園の行事と子どもの経験
- 第10回：保育者の環境構成
- 第11回：保育計画と記録、省察
- 第12回：子どもを取り巻く現代社会と環境
- 第13回：子ども・家庭と保育・幼児教育の場
- 第14回：世界の保育・幼児教育
- 第15回：総括

評価

授業時の課題提出やコメントペーパーによる平常点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『環境』 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていけるような環境作りを考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、自然環境のみならず、人・物・事象と子どもとの関係を理解する。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

- 第1回：概説：保育における「環境」とは
- 第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「環境」とその変遷
- 第3回：子どもの発達と環境：乳児期
- 第4回：子どもの発達と環境：幼児期、児童期
- 第5回：遊びと環境
- 第6回：具体的事物との関わり、人的環境としての保育者の役割
- 第7回：子どもと自然
- 第8回：生活環境における文字、数量、情報
- 第9回：園の行事と子どもの経験
- 第10回：保育者の環境構成
- 第11回：保育計画と記録、省察
- 第12回：子どもを取り巻く現代社会と環境
- 第13回：子ども・家庭と保育・幼児教育の場
- 第14回：世界の保育・幼児教育
- 第15回：総括

評価

授業時の課題提出やコメントペーパーによる平常点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『環境』 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていけるような環境作りを考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、自然環境のみならず、人・物・事象と子どもとの関係を理解する。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

- 第1回：概説：保育における「環境」とは
- 第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「環境」とその変遷
- 第3回：子どもの発達と環境：乳児期
- 第4回：子どもの発達と環境：幼児期、児童期
- 第5回：遊びと環境
- 第6回：具体的事物との関わり、人的環境としての保育者の役割
- 第7回：子どもと自然
- 第8回：生活環境における文字、数量、情報
- 第9回：園の行事と子どもの経験
- 第10回：保育者の環境構成
- 第11回：保育計画と記録、省察
- 第12回：子どもを取り巻く現代社会と環境
- 第13回：子ども・家庭と保育・幼児教育の場
- 第14回：世界の保育・幼児教育
- 第15回：総括

評価

授業時の課題提出やコメントペーパーによる平常点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『環境』 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

1. プロローグ・自然との出会い-1- 触感覚を駆使して・フロッタージュ
2. 自然との出会い-2- 葉っぱのはり絵
3. ものとの出会い-1- 紙との出会いから はり絵
4. ものとの出会い-2- ローラーのあそびから
5. ものとの出会い-3- スタンピング
6. ものとの出会い-4- スチレン版画 紙版画
7. ものとの出会い-5- 円柱形からの展開
8. ものとの出会い-6- 空き箱との出会い
9. ものとの出会い-7- 風を感じて
10. ひとつの出会い-1- 一緒に描くっておもしろい
11. ひとつの出会い-2- 持ち寄りの協同画
12. ひとつの出会い-3- 持ち寄りの活動、劇的
13. 社会の事象と造形-1- クリスマスなど
14. 社会の事象と造形-2- 宇宙と...
15. エピローグ・社会の事象と造形-3- プレゼントカード

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1- 触感覚を駆使して・フロッタージュ
2. 自然との出会い-2- 葉っぱのはり絵
3. ものとの出会い-1- 紙との出会いから はり絵
4. ものとの出会い-2- ローラーのあそびから
5. ものとの出会い-3- スタンピング
6. ものとの出会い-4- スチレン版画 紙版画
7. ものとの出会い-5- 円柱形からの展開
8. ものとの出会い-6- 空き箱との出会い
9. ものとの出会い-7- 風を感じて
10. ひとつの出会い-1- 一緒に描くっておもしろい
11. ひとつの出会い-2- 持ち寄りの協同画
12. ひとつの出会い-3- 持ち寄りの活動、劇的
13. 社会の事象と造形-1- クリスマスなど
14. 社会の事象と造形-2- 宇宙と...
15. エピローグ・社会の事象と造形-3- プレゼントカード

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1- 触感覚を駆使して・フロッタージュ
2. 自然との出会い-2- 葉っぱのはり絵
3. ものとの出会い-1- 紙との出会いから はり絵
4. ものとの出会い-2- ローラーのあそびから
5. ものとの出会い-3- スタンピング
6. ものとの出会い-4- スチレン版画 紙版画
7. ものとの出会い-5- 円柱形からの展開
8. ものとの出会い-6- 空き箱との出会い
9. ものとの出会い-7- 風を感じて
10. ひとつの出会い-1- 一緒に描くっておもしろい
11. ひとつの出会い-2- 持ち寄りの協同画
12. ひとつの出会い-3- 持ち寄りの活動、劇的
13. 社会の事象と造形-1- クリスマスなど
14. 社会の事象と造形-2- 宇宙と...
15. エピローグ・社会の事象と造形-3- プレゼントカード

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1 幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1- 触感覚を駆使して・フロッタージュ
2. 自然との出会い-2- 葉っぱのはり絵
3. ものとの出会い-1- 紙との出会いから はり絵
4. ものとの出会い-2- ローラーのあそびから
5. ものとの出会い-3- スタンピング
6. ものとの出会い-4- スチレン版画 紙版画
7. ものとの出会い-5- 円柱形からの展開
8. ものとの出会い-6- 空き箱との出会い
9. ものとの出会い-7- 風を感じて
10. ひととの出会い-1- 一緒に描くっておもしろい
11. ひととの出会い-2- 持ち寄りの協同画
12. ひととの出会い-3- 持ち寄りの活動、劇的
13. 社会の事象と造形-1- クリスマスなど
14. 社会の事象と造形-2- 宇宙と...
15. エピローグ・社会の事象と造形-3- プレゼントカード

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物（30点）とレポート（70点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物 (30点) とレポート (70点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物 (30点) とレポート (70点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物 (30点) とレポート (70点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	国語概説		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

専門科目、保育内容の選択教科である。幼児・児童のことばと向き合うものとしてことばについてさまざまな側面から考えることを目指す。

漢字、ひらがな、片仮名などの文字の基礎基本を知り、さまざまな文章を読み考えを交流するなど実践的にことばと向き合う活動を通して学ぶ。

言葉について基礎的な知識を学び理解する。

読み、書き、表現する中で実践的な言葉の活用力を身につける。

内容

1	「ことばの学習」とは
2	文字について考える
3	文字について考える
4	文字について考える
5	プレゼンテーション
6	プレゼンテーション
7	詩を読む
8	詩を読む
9	新聞を読む
10	自分の考えを書く
11	敬語
12	ことばについて考える
13	児童文学
14	児童文学
15	まとめ

評価

ミニレポート (2 割)、参加の状況 (3 割)、最終レポート (5 割)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	算数概説		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児期から形成される数、量、図形概念の獲得過程を考察していく。

小学校就学前後の幼児・児童の数学的概念の獲得と、小学校算数科の内容と関連づける。算数は低学年から高学年の学年進行にしたがって段階的に高度になる。指導の系統を考察し、小学校入学前の幼児期の遊びや生活を通した数や量の形の内容獲得を知る。算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

幼児期から形成される数学的な概念を、小学校算数科の内容と関連づけ、さらに問題解決学習を体感する。

内容

1	ガイダンス、小学校における算数科の役割と幼児教育
2	学習指導要領における算数、数感覚、個数を数えること、1対1対応
3	幼児の数感覚、十進位取り記数法
4	同じ数ずつの集まり、数の相対的な大きさ
5	どちらが多い、すごろく遊び、ものと数詞の対応、数の表し方
6	幼稚園での遊びの中での数、数概念、数直線
7	数の大小、順序と系列あわせていくつ、ピンゴ・ゲーム
8	幼稚園で数に関わること、加法・減法の意味、加法・減法の計算
9	数の増減、数当てゲーム、整数の性質、問題解決的な学習
10	仲間集めと分類、くらべてみよう
11	身近な量の大きさ
12	比べ方と量の保存、量の測定
13	幼児の図形と空間の感覚、形作り、型押し、影遊び、模様作り
14	幼児児童の数量感覚、変わり方のパターン
15	振り返りとまとめ

評価

小テストや提出物 (80%)、試験 (20%) で評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著 (東洋館出版社)

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、理論編 (明治図書)

算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編 (明治図書)

算数科コース別指導による確かな学び、4 - 6年実践編 (明治図書)

科目名	生活概説		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

小学校低学年教科の生活科がどのような学習であるかの概要を知り、ねらいや内容を具体的な実習や活動場面に触れることでより詳しく理解し、指導のポイントを身につける。また、仲間と協働してさまざまな体験を通し、これからの生活科のあり方を模索して、教員としての指導力や資質の向上を高めることをねらう。

内容

- 授業についての説明、
 - 生活概説についてのガイダンス、準備や連絡の説明
 - 幼児や低学年児童にとっての遊びや学校生活の意義
 - 保育の中の子どもや保育者の役割
 - 幼小連携とは何か
 - 小学校入門期の指導
 - 学校生活と入門期の学習
 - 生活科についての概要（小学校学習指導要領、幼稚園指導要綱のねらいと内容）
 - 生活科とはどのような教科か
 - 自然にかかわるねらいと内容
 - 大学キャンパス内の自然見つけと落ち葉の造形製作
 - 製作にかかわるねらいと内容
 - 実際に廃品等を集めそれらを利用して製作する
 - 地域社会にかかわるねらいと内容
 - 自分の住んでいる町をマップで表現する
 - 作成したマップを元に自分の町自慢をする（発表）
 - 実際の指導はどのようにするか
 - 年間カリキュラム編成の意義と概要
 - 学習指導案の事例から指導案の意義を学ぶ
 - 学んだことを振り返り（評価に触れる）まとめをする
- 2 回ほど折り紙を活用したカード作りや俳句作りを入れる

評価

毎回の授業の課題が75%、作品25%程度で総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特になし その都度作成資料配付

【参考図書】 学習指導要領・生活科の指導書 「新しい生活」小学校生活科教科書 東京書籍

生活科事典 東京書籍 他の参考図書は授業内で提示する。

科目名	生涯発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とそれに続く児童期の特徴について理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・生涯発達という観点から人間をとらえ、人の一生の各時期の発達の特徴について学ぶ。
- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・各時期の発達の特徴と、保育や学習との関連を考察する。

内容

1	保育と発達心理学（1）子どもの発達を理解することの意義・保育実践の評価と心理学
2	保育と発達心理学（2）発達観、子ども観と保育観
3	生涯発達と初期経験の重要性（1）胎児期及び新生児期の発達
4	生涯発達と初期経験の重要性（2）乳幼児期の発達
5	生涯発達と初期経験の重要性（3）学童期から青年期の発達
6	生涯発達と初期経験の重要性（4）成人期、老年期の発達
7	子どもの発達理解（1）子どもの発達と環境
8	子どもの発達理解（2）感情の発達と自我
9	子どもの発達理解（3）身体的機能と運動機能の発達
10	子どもの発達理解（4）知覚と認知の発達・学習
11	子どもの発達理解（5）言葉の発達と社会性
12	人との相互的にかかわりと子どもの発達（1）基本的信頼感の獲得
13	人との相互的にかかわりと子どもの発達（2）他者とのかかわり・社会的相互作用
14	生涯発達の観点から考えた障がいと発達援助
15	まとめ

評価

平常点（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

科目名	生涯発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の対象の理解に関する科目」の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とそれに続く児童期の特徴について理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

学修目標

- ・生涯発達という観点から人間をとらえ、人の一生の各時期の発達の特徴について学ぶ。
- ・特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- ・各時期の発達の特徴と、保育や学習との関連を考察する。

内容

1	保育と発達心理学（1）子どもの発達を理解することの意義・保育実践の評価と心理学
2	保育と発達心理学（2）発達観、子ども観と保育観
3	生涯発達と初期経験の重要性（1）胎児期及び新生児期の発達
4	生涯発達と初期経験の重要性（2）乳幼児期の発達
5	生涯発達と初期経験の重要性（3）学童期から青年期の発達
6	生涯発達と初期経験の重要性（4）成人期、老年期の発達
7	子どもの発達理解（1）子どもの発達と環境
8	子どもの発達理解（2）感情の発達と自我
9	子どもの発達理解（3）身体的機能と運動機能の発達
10	子どもの発達理解（4）知覚と認知の発達・学習
11	子どもの発達理解（5）言葉の発達と社会性
12	人との相互的にかかわりと子どもの発達（1）基本的信頼感の獲得
13	人との相互的にかかわりと子どもの発達（2）他者とのかかわり・社会的相互作用
14	生涯発達の観点から考えた障がいと発達援助
15	まとめ

評価

平常点（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房

無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

科目名	保育心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーの提出を求める。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

1	子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
4	子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り
6	子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制
7	子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境
8	学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び
9	学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う
10	保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助
11	保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり
13	保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援
14	保育における発達援助(5)発達援助における協働
15	まとめ

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』 北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

科目名	保育心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーの提出を求める。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

1	子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践(3)個人差や発達過程に応じた保育
4	子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り
6	子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制
7	子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境
8	学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び
9	学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う
10	保育における発達援助(1)基本的な生活習慣の獲得と発達援助
11	保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり
13	保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援
14	保育における発達援助(5)発達援助における協働
15	まとめ

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テスト70点で評価し、60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【テキスト】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』 北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

科目名	保育心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の卒業必修科目である。

科目の概要

子どもの発達、生活や遊びを通じた学習の過程、性格、適応などについて、保育心理学の立場から学ぶ。

学修目標

毎回事前に該当する部分のテキストを読み、レジユメを作成し提出する。毎回短い論述課題およびリアクションペーパーの提出を求める。

乳幼児期の子どもの理解を深め、保育をより効果的に進めるための心理学的知見、さらに生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程、保育における発達援助について理解する。

内容

1	子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
4	子どもの発達と保育実践(4)環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践(5)子ども相互のかかわりと関係作り
6	子どもの発達と保育実践(6)自己主張と自己統制
7	子どもの発達と保育実践(7)子ども集団と保育の環境
8	学習過程(1)子どもの生活・遊びと学び
9	学習過程(2)生涯にわたる生きる力の基礎を培う
10	保育における発達援助(1)基本的生活習慣の獲得と発達援助
11	保育における発達援助(2)自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助(3)発達の課題に応じた援助やかかわり
13	保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援
14	保育における発達援助(5)発達援助における協働
15	まとめ

評価

毎回のレジユメ・リアクションペーパー30点、期末テストレポート70点で評価し、60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】無藤隆・清水益次編著『保育の心理学』 北大路書房

【推薦書】内田伸子編著『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

服部照子・岡本雅子編著『保育発達学（第2版）』ミネルヴァ書房

科目名	臨床発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

乳幼児期・児童期の子どもを臨床発達心理学的観点から考える。これまでに履修してきた発達に関わる基礎的な知識を土台として、さらに代表的な発達理論について理解を深めると同時に、臨床場面での事例に基づいて障がいについて学ぶ。

科目の概要

理論的背景としてPiaget、Eriksonの主張や、発達心理学の領域で注目されている「心の理論」などについて学ぶ。さらに、さまざまな発達障がいについて理解を深め、障がいをもっている子どもたちの保育・教育や子育てについて考える。

学修目標

- ・発達理論については、授業内に解説される内容をよく復習し、これまでに学んだ知識と有機的に統合する
- ・障がいについては、事例に基づくそれぞれの障がいの特徴を理解し、障がいをもつ子どもへの保育・教育について自分自身で考える力を養う
- ・臨床的な視点から発達をとらえることの必要性について理解する

内容

1	臨床発達心理学総論
2	Piagetの発達段階論
3	Piagetの発達段階論
4	Eriksonの発達理論
5	Eriksonの発達理論
6	「心の理論」
7	「心の理論」
8	発達障がい総論
9	発達障がい各論 : 広汎性発達障害
10	発達障がい各論 : ADHD
11	発達障がい各論 : LD
12	発達障がい各論 : 発達障がいを持つ子どもを持つということ
13	もう一つの「発達障がい」 : 虐待1
14	もう一つの「発達障がい」 : 虐待2
15	まとめ

評価

平常点(授業内の感想票)20点、学期末の筆記試験80点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 白石正久著 『発達の扉 上』 かもがわ出版
白石正久著 『発達の扉 下』 かもがわ出版
- 【推薦書】 市川宏伸著 『子どもの心の病気がわかる本』 講談社
小西 行郎 『子どもの心の発達がわかる本』 講談社

科目名	青年心理学		
担当教員名	大宮 明子、赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科幼児教育専攻および児童教育専攻3・4年次の保育士資格取得希望者を対象とした学部専門科目（選択）であり、また2年次の保育士資格取得希望者を対象とした学科専門科目（選択）である。

科目の概要

この科目では、講義形式で思春期・青年期の発達の特徴や生じうる臨床的な課題について学ぶと共に、青年期にある履修者自身の自己理解を深めるためにワークを行う。

学修目標

1. 思春期・青年期の発達の特徴と臨床的な課題を理解する
2. 自己理解を深める
3. 物事を感じる力とそれを文章で表現する力を磨く

内容

1	オリエンテーション：思春期・青年期の意味
2	ワーク1：青年期にある「私」に注目
3	青年期の認知発達
4	青年期の身体発達と心の発達
5	青年期の家族関係
6	青年期の友人関係
7	青年期の恋愛関係
8	前半のまとめ
9	就職とキャリア設計
10	青年と文化
11	青年期の臨床的な課題1
12	ワーク2：表現活動を媒介とした自己理解と他者理解
13	青年期の臨床的な課題2
14	青年期と精神疾患
15	まとめ

評価

授業中のリアクションペーパー30点、ワークの課題20点、期末試験50点で、60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【テキスト】授業中指示する。資料は適宜配布する。

【推薦書】宮下一博監修 松島公望・橋本広信編「ようこそ！青年心理学」ナカニシヤ出版
大野久編著「エピソードでつかむ青年心理学」 ミネルヴァ書房

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を取得するにあたって必要となる科目であり、子どもや家庭をめぐる福祉の概要を学ぶことになります。1年次履修「社会福祉」、2年次履修「養護原理」「養護内容」、3年次履修「相談援助」とも関連性があります。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。子ども権利条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

学修目標

1. 子ども家庭福祉の変遷を知り、基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設・児童厚生施設の現状を理解する。
3. 子どもの権利について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

内容

1	子ども家庭福祉とは
2	「今」の子どもをめぐる現状
3	子ども家庭福祉の歴史をたどる
4	子ども観の変遷と子どもの権利条約
5	どのような組織・専門職があるのだろうか 保育ニーズと保育者
6	どのような組織・専門職があるのだろうか 子ども家庭福祉の行政機関
7	どのような組織・専門職があるのだろうか 児童福祉施設
8	気になる子どもの支援と課題 発達のお悩みをもつ子どもを取り巻く現状
9	気になる子どもの支援と課題 子ども虐待
10	気になる子どもの支援と課題 少年非行等への対応
11	母子保健サービスと子育て支援の展開
12	子育て支援・次世代育成支援サービスの展開
13	子ども家庭福祉の援助活動と専門職の役割
14	まとめ ~子ども家庭福祉とは~
15	まとめ ~育ち・育てあう関係とは~

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末テスト(50点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

新 保育士養成講座 第3巻 児童家庭福祉 全国社会福祉協議会
最新保育資料集2012 ミネルヴァ書房

〔参考書〕

適宜、授業内で紹介する

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育士資格を取得するにあたって必要となる科目であり、子どもや家庭をめぐる福祉の概要を学ぶことになります。1年次履修「社会福祉」、2年次履修「養護原理」「養護内容」、3年次履修「相談援助」とも関連性があります。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。子ども権利条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

学修目標

1. 子ども家庭福祉の変遷を知り、基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設・児童厚生施設の現状を理解する。
3. 子どもの権利について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

内容

1	子ども家庭福祉とは
2	「今」の子どもをめぐる現状
3	子ども家庭福祉の歴史をたどる
4	子ども観の変遷と子どもの権利条約
5	どのような組織・専門職があるのだろうか 保育ニーズと保育者
6	どのような組織・専門職があるのだろうか 子ども家庭福祉の行政機関
7	どのような組織・専門職があるのだろうか 児童福祉施設
8	気になる子どもの支援と課題 発達のお悩みをもつ子どもを取り巻く現状
9	気になる子どもの支援と課題 子ども虐待
10	気になる子どもの支援と課題 少年非行等への対応
11	母子保健サービスと子育て支援の展開
12	子育て支援・次世代育成支援サービスの展開
13	子ども家庭福祉の援助活動と専門職の役割
14	まとめ ~子ども家庭福祉とは~
15	まとめ ~育ち・育てあう関係とは~

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末テスト（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

新 保育士養成講座 第3巻 児童家庭福祉 全国社会福祉協議会
最新保育資料集2012 ミネルヴァ書房

〔参考書〕

適宜、授業内で紹介する

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 子ども家庭福祉 をふまえて、現在の子ども家庭福祉問題に関わる援助の実際について、関わる機関、施設、領域、対象別にテーマを設けて検討する。特に、法改正の変遷や子どもをめぐる問題、子供の権利の実情に即して、専門援助のあり方を考察できるようになることを目指す。

科目の概要 本講義では、子ども家庭福祉 をふまえて、現在の児童福祉問題に関わる援助の実際について、現代の子どもや家庭に関わる福祉課題の理解、理念の理解 (講義1.2.3.4)、子ども家庭福祉の法制度、関わる機関、支援、施設の理解 (講義5.6.7.8.9.10.11.12.13) をふまえ、今後の課題について考察ができる (講義14) ようになることを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における子どもや家庭の現状と福祉課題について理解する。 2. 子ども家庭福祉の法制度の基礎を理解する。 3. 子ども家庭福祉の援助体制や実際について理解する。 4. 子ども家庭福祉の動向と課題について理解する。

内容

- 1 現代社会と子ども・家庭の生活実態
- 2 現代社会と子ども・家庭福祉ニーズ
- 3 子ども家庭福祉の理念 (1) 児童の定義
- 4 子ども家庭福祉の理念 (2) 児童の権利
- 5 子ども家庭福祉に関わる法と実施体制
- 6 子ども家庭福祉と自立支援
- 7 児童虐待の理解
- 8 児童虐待、家庭内暴力への援助と防止
- 9 児童福祉サービスの実際 1 相談援助活動
- 10 児童福祉サービスの実際 2 児童福祉施設 (1)
- 11 児童福祉サービスの実際 3 児童福祉施設 (2)
- 12 児童福祉サービスの実際 4 子育て支援 / 地域援助活動
- 13 児童福祉サービスの実際 5 児童福祉専門職の専門性と倫理の課題
- 14 児童・家庭福祉サービスの新しい動き
- 15 まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート (20点)、試験 (50点)、授業態度 (リアクションペーパー提出含む) (30点)。60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 新 保育士養成講座編纂委員会 編 「新 保育士養成講座 第3巻 児童家庭福祉」全国社会福祉協議会出版部
推薦書、参考文献等 講義中に適宜示す

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 子ども家庭福祉 をふまえて、現在の子ども家庭福祉問題に関わる援助の実際について、関わる機関、施設、領域、対象別にテーマを設けて検討する。特に、法改正の変遷や子どもをめぐる問題、子供の権利の実情に即して、専門援助のあり方を考察できるようになることを目指す。

科目の概要 本講義では、子ども家庭福祉 をふまえて、現在の児童福祉問題に関わる援助の実際について、現代の子どもや家庭に関わる福祉課題の理解、理念の理解（講義1.2.3.4）、子ども家庭福祉の法制度、関わる機関、支援、施設の理解（講義5.6.7.8.9.10.11.12.13）をふまえ、今後の課題について考察ができる（講義14）ようになることを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における子どもや家庭の現状と福祉課題について理解する。 2. 子ども家庭福祉の法制度の基礎を理解する 3. 子ども家庭福祉の援助体制や実際について理解する 4. 子ども家庭福祉の動向と課題について理解する。

内容

- 1 現代社会と子ども・家庭の生活実態
- 2 現代社会と子ども・家庭福祉ニーズ
- 3 子ども家庭福祉の理念（1）児童の定義
- 4 子ども家庭福祉の理念（2）児童の権利
- 5 子ども家庭福祉に関わる法と実施体制
- 6 子ども家庭福祉と自立支援
- 7 児童虐待の理解
- 8 児童虐待、家庭内暴力への援助と防止
- 9 児童福祉サービスの実際 1 相談援助活動
- 10児童福祉サービスの実際 2 児童福祉施設(1)
- 11児童福祉サービスの実際 3 児童福祉施設(2)
- 12児童福祉サービスの実際 4 子育て支援/地域援助活動
- 13児童福祉サービスの実際 5 児童福祉専門職の専門性と倫理の課題
- 14児童・家庭福祉サービスの新しい動き
- 15 まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 新 保育士養成講座編纂委員会 編 「新 保育士養成講座 第3巻 児童家庭福祉」全国社会福祉協議会出版部
推薦書、参考文献等 講義中に適宜示す

科目名	社会福祉		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し (講義1.2) 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する (講義3.4)、そして、社会福祉に関わる基本的な制度、実施体系、専門職などについて理解を深め (講義4.6.7.8.9.10.11.12)、課題の考察 (講義13.14) が可能になることを目的とする。

学修目標本 講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

内容

1	オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷(1)
2	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷(2)
3	社会福祉と人権 (1) 社会福祉と児童家庭福祉と人権
4	社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護
5	社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系
6	社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関
7	社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等
8	社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者
9	社会福祉の制度と実施体系 (5) 社会保障及び関連制度の概要
10	社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則
11	社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術
12	社会福祉における相談援助 (3)社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
13	社会福祉の動向と課題 (1)少子高齢化社会への対応と在宅福祉・地域福祉の推進
14	社会福祉の動向と課題 (2) 教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク
15	まとめ

評価

学習目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『新 保育士養成講座』編纂委員会 編「保育士養成講座 第4巻 社会福祉/社会福祉と相談援助」全国社会福祉協議会出版部

参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

科目名	社会福祉		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し(講義1.2)社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する(講義3.4)、そして、社会福祉に関わる基本的な制度、実施体系、専門職などについて理解を深め(講義4.6.7.8.9.10.11.12)、課題の考察(講義13.14)が可能になることを目的とする。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。

3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

内容

< 内容 > h

- 1 オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷(1) 社会福祉の理念と概念
- 2 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷(2) 社会福祉の歴史的変遷
- 3 社会福祉と人権 (1) 社会福祉と児童家庭福祉と人権
- 4 社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護
- 5 社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系
- 6 社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関
- 7 社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等
- 8 社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者
- 9 社会福祉の制度と実施体系 (5) 社会保障及び関連制度の概要
- 10 社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則
- 11 社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術
- 12 社会福祉における相談援助 (3)社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
- 13 社会福祉の動向と課題 (1)少子高齢化社会への対応と在宅福祉・地域福祉の推進
- 14 社会福祉の動向と課題 (2) 教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク
- 15 総括

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト 『新 保育士養成講座』編纂委員会 編「保育士養成講座 第4巻 社会福祉/社会福祉と相談援助」全国社会福祉協議会出版部

参考図書等 必要に応じて随時講義内で示す。

科目名	養護原理		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。1年生で学ぶ保育専門職として修得すべき科目を踏まえて、社会的養護の概念、意義と課題理解を目標とする。科目の関連は特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「養護内容」をはじめとした保育、社会的養護に関わる各福祉領域の制度やサービス理解とつながりが深い科目である。

科目の概要 本講義では、社会的養護の原理について理念と歴史的展開変遷（講義1.2）、児童の権利擁護と養護理論（講義3.4）、法と制度施策体制と施設機関の理解、自立支援、虐待対応と防止等（講義5.6.7.8.9.10.11.12.13）理解と今後の課題について考察がきる（講義14）よことを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。 **講義の目標** 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

内容

< 内容 >

- 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷 (1)社会的養護の理念と概念
- 2 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷 (2)歴史的変遷
- 3 社会的養護と子ども家庭福祉
- 4 児童の権利擁護と社会的養護
- 5 社会的養護の制度と法体系
- 6 社会的養護の仕組みと実施体系
- 7 家庭的養護と施設養護
- 8 社会的養護の専門職・実施者
- 9 施設養護の実際
- 10施設養護の実際 - 日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等 -
- 11施設養護とソーシャルワーク
- 12社会的養護の現状と課題
- 13施設等の運営管理と地域とのかかわり
- 14被措置児童等の虐待防止と社会的養護
- 15総括

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。6

0点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 山縣文治他編 「よくわかる養護原理 第三版」 ミネルヴァ書房

推薦書、参考文献等 講義中に適宜示す

科目名	養護原理		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 本科目は学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。1年生で学ぶ保育専門職として修得すべき科目を踏まえて、社会的養護の概念、意義と課題理解を目標とする。科目の関連は特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「養護内容」をはじめとした保育、社会的養護に関わる各福祉領域の制度やサービス理解とつながりが深い科目である。

科目の概要 本講義では、社会的養護の原理について理念と歴史的展開変遷（講義1.2）、児童の権利擁護と養護理論（講義3.4）、法と制度施策体制と施設機関の理解、自立支援、虐待対応と防止等（講義5.6.7.8.9.10.11.12.13）理解と今後の課題について考察がきる（講義14）ことを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。2．社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。3．社会的養護の制度や実施体系等について理解する。4．社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。5．社会的養護の現状と課題について理解する

内容

< 内容 >

- 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷 (1)社会的養護の理念と概念
- 2 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷 (2)歴史的変遷
- 3 社会的養護と子ども家庭福祉
- 4 児童の権利擁護と社会的養護
- 5 社会的養護の制度と法体系
- 6 社会的養護の仕組みと実施体系
- 7 家庭的養護と施設養護
- 8 社会的養護の専門職・実施者
- 9 施設養護の実際
- 10施設養護の実際 - 日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等 -
- 11施設養護とソーシャルワーク
- 12社会的養護の現状と課題
- 13施設等の運営管理と地域とのかかわり
- 14被措置児童等の虐待防止と社会的養護
- 15総括

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。6

0点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 山縣文治他編 「よくわかる養護原理 第三版」 ミネルヴァ書房

推薦書、参考文献等 講義中に適宜示す

科目名	養護内容		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次前期開講の養護原理で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「養護原理」、3年次履修「相談援助」や3・4年次の施設実習(保育所以外)とも関連性がある。

科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や危機介入について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションおよびグループワークも取り入れていく。

学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 児童養護施設と地域のつながりや施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	家族と親権
3	親とは何だろうか
4	自立とは何だろうか
5	「今」の社会的養護
6	児童養護の決定に関する基本的しくみと自立支援計画
7	保育者の基本的な養護援助・支援 児童養護施設の現状
8	保育者の基本的な養護援助・支援 児童養護施設の援助の実際
9	保育者の基本的な養護援助・支援 乳児院の現状
10	保育者の基本的な養護援助・支援 乳児院の援助の実際
11	保育者の基本的な養護援助・支援 児童自立支援施設
12	保育者の基本的な養護援助・支援 母子生活支援施設
13	保育者の基本的な養護援助・支援 障害児系施設
14	保育者の基本的な養護援助・支援 知的障害児・知的障害者施設
15	まとめ

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末レポート(50点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 小木曾 宏 他 『よくわかる養護内容・自立支援』 ミネルヴァ書房

[参考図書] 市川和彦 『虐待のない支援 知的障害の理解と関わり合い』 誠信書房

科目名	養護内容		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次前期開講の養護原理で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「養護原理」、3年次履修「相談援助」や3・4年次の施設実習(保育所以外)とも関連性がある。

科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や危機介入について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションおよびグループワークも取り入れていく。

学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 児童養護施設と地域のつながりや施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	家族と親権
3	親とは何だろうか
4	自立とは何だろうか
5	「今」の社会的養護
6	児童養護の決定に関する基本的しくみと自立支援計画
7	保育者の基本的な養護援助・支援 児童養護施設の現状
8	保育者の基本的な養護援助・支援 児童養護施設の援助の実際
9	保育者の基本的な養護援助・支援 乳児院の現状
10	保育者の基本的な養護援助・支援 乳児院の援助の実際
11	保育者の基本的な養護援助・支援 児童自立支援施設
12	保育者の基本的な養護援助・支援 母子生活支援施設
13	保育者の基本的な養護援助・支援 障害児系施設
14	保育者の基本的な養護援助・支援 知的障害児・知的障害者施設
15	まとめ

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末レポート(50点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 小木曾 宏 他 『よくわかる養護内容・自立支援』 ミネルヴァ書房

[参考図書] 市川和彦 『虐待のない支援 知的障害の理解と関わり合い』 誠信書房

科目名	養護内容		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次前期開講の養護原理で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「養護原理」、3年次履修「相談援助」や3・4年次の施設実習（保育所以外）とも関連性がある。

科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や危機介入について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションおよびグループワークも取り入れていく。

学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 児童養護施設と地域のつながりや施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	家族と親権
3	親とは何だろうか
4	自立とは何だろうか
5	「今」の社会的養護
6	児童養護の決定に関する基本的しくみと自立支援計画
7	保育者の基本的な養護援助・支援 児童養護施設の現状
8	保育者の基本的な養護援助・支援 児童養護施設の援助の実際
9	保育者の基本的な養護援助・支援 乳児院の現状
10	保育者の基本的な養護援助・支援 乳児院の援助の実際
11	保育者の基本的な養護援助・支援 児童自立支援施設
12	保育者の基本的な養護援助・支援 母子生活支援施設
13	保育者の基本的な養護援助・支援 障害児系施設
14	保育者の基本的な養護援助・支援 知的障害児・知的障害者施設
15	まとめ

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業初回にて指示を行ないます。

科目名	養護内容		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次前期開講の養護原理で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「養護原理」、3年次履修「相談援助」や3・4年次の施設実習（保育所以外）とも関連性がある。

科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や危機介入について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションおよびグループワークも取り入れていく。

学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 児童養護施設と地域のつながりや施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	家族と親権
3	親とは何だろうか
4	自立とは何だろうか
5	「今」の社会的養護
6	児童養護の決定に関する基本的しくみと自立支援計画
7	保育者の基本的な養護援助・支援 児童養護施設の現状
8	保育者の基本的な養護援助・支援 児童養護施設の援助の実際
9	保育者の基本的な養護援助・支援 乳児院の現状
10	保育者の基本的な養護援助・支援 乳児院の援助の実際
11	保育者の基本的な養護援助・支援 児童自立支援施設
12	保育者の基本的な養護援助・支援 母子生活支援施設
13	保育者の基本的な養護援助・支援 障害児系施設
14	保育者の基本的な養護援助・支援 知的障害児・知的障害者施設
15	まとめ

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業初回にて指示を行ないます。

科目名	子育て支援論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は保育士養成課程カリキュラムの「保育の対象の理解に関する科目」に関する科目の一つであり、「家庭の意義とその機能」「子育て家庭を取り巻く社会的状況」「子育て家庭の支援体制」「子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携」について理解することが求められています。昨今の子育て環境の変化を踏まえ、子育ての現状を知ることから始め、現代社会において求められている子育て支援とはどのようなものかについて考えを深めることを目指します。

また受講者自身が出来る子育て支援とはどのようなものかについて考え、そこから「子どもを育てる」ことの意義について考えを深めていくこととします。

内容

1. 家庭支援の意義と役割
 - (1) 家庭の意義と機能 - 親になるとは - (第1回)
 - (2) 家庭支援の必要性 (第2回)
2. 家庭生活を取り巻く社会的状況
 - (1) 子育てするとは? (第3回)
 - (2) 子どもにとっての家族とは? - 家族形態の変容 - (第4回)
 - (3) 男女共同参画社会とワークライフバランス (第5回)
3. 子育て支援課程の支援体制
 - (1) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 (第6回)
4. 多様な支援の展開と関係機関との連携
 - (1) 子育て支援サービスの概要
 - 保育所での実践例 (第7回)
 - 地域の子育て家庭への実践例 (第8回)
 - (2) 要保護児童及びその家庭に対する支援
 - 乳児院での実践例 (第9回)
 - 保健所での実践例 (第10回)
 - 児童相談所の実践例 (第11回)
 - (3) 子育て支援機関との連携 (第12回)
 - (4) 様々な子育て支援事業
 - 虐待を防ぐ取り組み (第13回)
5. 他国の子育て支援事業について (第14回)
6. まとめ (第15回)

評価

授業後の小レポート(30点)、授業への参加意欲(20点)、および最終課題(50点)により総合的評価を行います。

60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：授業内で指定する。

参考図書：大豆生田啓友他編「よくわかる子育て支援・家族援助論」ミネルヴァ書房

橋本真紀他編「よくわかる家族援助論」ミネルヴァ書房

汐見稔幸編「世界に学ぼう!子育て支援」フレーベル館

科目名	子育て支援論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は保育士養成課程カリキュラムの「保育の対象の理解に関する科目」に関する科目の一つであり、「家庭の意義とその機能」「子育て家庭を取り巻く社会的状況」「子育て家庭の支援体制」「子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携」について理解することが求められています。昨今の子育て環境の変化を踏まえ、子育ての現状を知ることから始め、現代社会において求められている子育て支援とはどのようなものかについて考えを深めることを目指します。

また受講者自身が出来る子育て支援とはどのようなものかについて考え、そこから「子どもを育てる」ことの意義について考えを深めていくこととします

内容

1. 家庭支援の意義と役割
 - (1) 家庭の意義と機能 - 親になるとは - (第1回)
 - (2) 家庭支援の必要性 (第2回)
2. 家庭生活を取り巻く社会的状況
 - (1) 子育てするとは? (第3回)
 - (2) 子どもにとっての家族とは? - 家族形態の変容 - (第4回)
 - (3) 男女共同参画社会とワークライフバランス (第5回)
3. 子育て支援課程の支援体制
 - (1) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 (第6回)
4. 多様な支援の展開と関係機関との連携
 - (1) 子育て支援サービスの概要
 - 保育所での実践例 (第7回)
 - 地域の子育て家庭への実践例 (第8回)
 - (2) 要保護児童及びその家庭に対する支援
 - 乳児院での実践例 (第9回)
 - 保健所での実践例 (第10回)
 - 児童相談所の実践例 (第11回)
 - (3) 子育て支援機関との連携 (第12回)
 - (4) 様々な子育て支援事業
 - 虐待を防ぐ取り組み (第13回)
5. 他国の子育て支援事業について (第14回)
6. まとめ (第15回)

評価

授業後の小レポート(30点)、授業への参加意欲(20点)、および最終課題(50点)により総合的評価を行います。

60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：授業内で指定する。

参考図書：大豆生田啓友他編「よくわかる子育て支援・家族援助論」ミネルヴァ書房

橋本真紀他編「よくわかる家族援助論」ミネルヴァ書房

汐見稔幸編「世界に学ぼう!子育て支援」フレーベル館

科目名	家族関係論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間生活の基本単位である家族という小集団と、そこでの人間関係の特徴を理解する。家族は、男女が結婚することによってつくり、子どもの誕生によって成員を増やし、やがて子どもが独立することで規模を縮小し、最後は老夫婦のいずれか一方の死によって消滅するという、ライフサイクルを持っている。ライフサイクルのそれぞれのライフステージには、それぞれの生活課題がある。近年、わが国では未婚晩婚化、晩産化が進み、ライフサイクルの平均像が大きく異なっている。本科目では、家族関係における周期的な変化と時代的な変化を、実証的に読み解く力を習得する。

内容

1	ガイダンス - 家族の捉え方
2	家族のかたち - 1 . 核家族の二面性
3	家族のかたち - 2 . 家族の種類と分類
4	家族のかたち - 3 . 家族形態の変化
5	結婚と家族形成 - 1 . 異性交際
6	結婚と家族形成 - 2 . 配偶者選択
7	結婚と家族形成 - 3 . 結婚のかたち
8	結婚と家族形成 - 4 . 結婚の変化
9	発達する家族 - 1 . 家族のライフサイクル
10	発達する家族 - 2 . ライフサイクルの変化
11	発達する家族 - 3 . ライフコースと世代
12	家族のライフステージと発達課題 - 1 . 夫婦関係
13	家族のライフステージと発達課題 - 2 . 前期親子関係
14	家族のライフステージと発達課題 - 3 . 後期親子関係
15	総括

評価

学期末のペーパー試験 (70%) と授業時の課題 (30%) によって評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

湯沢雅彦・宮本みち子『新版 データで読む家族問題』NHKブックス、2008。

野乃山久也編『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社、2009。

科目名	地域福祉論		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代社会における福祉を理解するため、地域福祉の基本的考え方、またその背景を学ぶ。各地で展開されている住民の主体的な活動事例 (ボランティア・NPO・コミュニティビジネス等) をとりあげ、多様な人々の多様な生活が展開する地域という総合的な空間の理解を深める。特に東日本大震災後、新たな「絆」を模索する取組を展開している東北に注目する。生活の場として、居住地域を見る視点を得る。

内容

1	現代社会におけるコミュニティと福祉
2	地域福祉の理念とその展開
3	地域福祉の理論の発展
4	地域福祉の主体と多様な地域団体
5	生活問題の発生とその把握 - 東日本大震災の復興過程から
6	住民参加と専門職の役割
7	事例検討 - 災害ボランティアをめぐって
8	事例検討 - 介護のネットワーク
9	事例検討 - 働く場を求めて
10	事例検討 - つながる関係を広げて
11	事例検討 - 安心して暮らす住まい
12	ソーシャルキャピタルの可能性
13	課題報告 - 自分の住む地域を考える
14	課題報告 - 自分の住む地域を考える
15	課題講評と講義のまとめ

評価

事例レポート (2 割)、報告・発表 (2 割)、期末レポート (6 割)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書 : 渋川智明 『福祉NPO - 地域を支える市民起業』岩波新書 2001 369/S

広井良典 『持続可能な福祉社会 - 「もう一つの日本」の構想』ちくま新書 2006 364/H

岩下清子・佐藤義夫・島田千穂 『「小規模多機能」の意味論』雲母書房 2006 369.26/ I

科目名	児童保健学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

子どもは大人を小さくしたわけではありません。乳児期、幼児期は成長を続け、人生の中でも最も変化が激しい時期です。児童保健学1は小児保健を学ぶ場です。入学初年度として子どもの成長、発育、発達や健康的な生活習慣について保育にかかわるものに知っていて欲しい幅広い基本的な事柄を健康な子どもを中心に学習します。さらに我が国の一般的な母子保健システムや母子手帳の役割、乳幼児健診についても長年母子保健行政や医療に関わってきた講師による実際的な講義を実施します。

内容

- 1,小児保健とは 人口動態について
- 2,母子保健行政システム
- 3,母子健康手帳の役割
- 4,乳児・幼児の発育と成長曲線
- 5,乳児・幼児の運動発達、神経発達と反射
- 6,乳児健診 各種統計
- 7,1歳半健診、3歳児健診 就学時健診
- 8,女性の喫煙・飲酒と出生児への影響
- 9,乳幼児の栄養・消化
- 10,子どもの睡眠
- 11,子どもの生活リズム
- 12,指しゃぶり、おしゃぶりの口腔影響
- 13,子どもとメディア、児童憲章
- 14,授業の復習
- 15,まとめ 解説

評価

定期試験80% レポート10% 授業参加度10%によって評価し60点以上を合格とする。
合格点に満たない場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書]日本保育園保健協議会編 [保育保健の基礎知識]日本小児医事出版社

[推薦書]田中哲郎監修 齋藤麗子共著[子育て支援における保健相談マニュアル]日本小児医事出版社

科目名	児童保健学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

子どもは大人を小さくしたわけではありません。乳児期、幼児期は成長を続け、人生の中でも最も変化が激しい時期です。児童保健学1は小児保健を学ぶ場です。入学初年度として子どもの成長、発育、発達や健康的な生活習慣について保育にかかわるものに知っていて欲しい幅広い基本的な事柄を健康な子どもを中心に学習します。さらに我が国の一般的な母子保健システムや母子手帳の役割、乳幼児健診についても長年母子保健行政や医療に関わってきた講師による実際的な講義を実施します。

内容

- 1,小児保健とは 人口動態について
- 2,母子保健行政システム
- 3,母子健康手帳の役割
- 4,乳児・幼児の発育と成長曲線
- 5,乳児・幼児の運動発達、神経発達と反射
- 6,乳児健診 各種統計
- 7,1歳半健診、3歳児健診 就学時健診
- 8,女性の喫煙・飲酒と出生児への影響
- 9,乳幼児の栄養・消化
- 10,子どもの睡眠
- 11,子どもの生活リズム
- 12,指しゃぶり、おしゃぶりの口腔影響
- 13,子どもとメディア、児童憲章
- 14,授業の復習
- 15,まとめ 解説

評価

定期試験80% レポート10% 授業参加度10%によって評価し60点以上を合格とする。
合格点に満たない場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書]日本保育園保健協議会編 [保育保健の基礎知識]日本小児医事出版社

[推薦書]田中哲郎監修 齋藤麗子共著[子育て支援における保健相談マニュアル]日本小児医事出版社

科目名	児童保健学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童保健学 をふまえ、保育の現場で身近な子どもの感染症や皮膚疾患についてDVD、スライドなどの視覚により理解しやすい授業を小児科専門医師により実施する。予防接種の最新知識や事故防止、虐待の発見、歯科保健、多胎児の育児など新しい話題の理解も必要である。

内容

- 1) 子どもの視力
- 2) 乳幼児の発育発達 デンバー式発達検査
- 3) 発達と事故防止 SIDS乳幼児突然死症候群
- 4) 子どもに多い皮膚の病気
- 5) ウィルス性感染症 1
- 6) ウィルス性感染症 2
- 7) 歯科保健
- 8) 発熱に関係する耳鼻科疾患
- 9) 予防接種
- 10) 受動喫煙による子どもへの影響
- 11) 気管支喘息
- 12 虐待の発見
- 13 双子、三つ子の育児
- 14) 後期の復習
- 15) まとめ 解説

評価

定期試験80% レポート10% 授業参加度10%によって評価し60点以上を合格とする。

合格点に満たない場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名) [教科書]日本保育園保健協議会編 [保育保健の基礎知識]日本小児医事出版社
 [推薦書]田中哲郎監修 齋藤麗子共著[子育て支援における保健相談マニュアル]日本小児医事出版社

科目名	児童保健学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童保健学 をふまえ、保育の現場で身近な子どもの感染症や皮膚疾患についてDVD、スライドなどの視覚により理解しやすい授業を小児科専門医師により実施する。予防接種の最新知識や事故防止、虐待の発見、歯科保健、多胎児の育児など新しい話題の理解も必要である。

内容

- 1) 子どもの視力
- 2) 乳幼児の発育発達 デンバー式発達検査
- 3) 発達と事故防止 SIDS乳幼児突然死症候群
- 4) 子どもに多い皮膚の病気
- 5) ウィルス性感染症 1
- 6) ウィルス性感染症 2
- 7) 歯科保健
- 8) 発熱に関係する耳鼻科疾患
- 9) 予防接種
- 10) 受動喫煙による子どもへの影響
- 11) 気管支喘息
- 12 虐待の発見
- 13 双子、三つ子の育児
- 14) 後期の復習
- 15) まとめ 解説

評価

定期試験80% レポート10% 授業参加度10%によって評価し60点以上を合格とする。

合格点に満たない場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名) [教科書]日本保育園保健協議会編 [保育保健の基礎知識]日本小児医事出版社
 [推薦書]田中哲郎監修 齋藤麗子共著[子育て支援における保健相談マニュアル]日本小児医事出版社

科目名	児童保健学演習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の現場では、子どもの健康観察は日常時に実施せねばならない。児童保健学演習では児童保健学1の学習を踏まえ、グループ単位で実習形式の授業を行う。乳児の人形を使った身長・体重測定、抱き方、排気の仕方、沐浴実習など体験型の学習である。正しい手洗い方法を知ることが感染予防、食中毒予防などの基本である。熱中症やけがの手当て、事故防止などの知識は、保育現場では欠かせない。この実習を主体的にまじめに取り組むことで、児童保健学2の理解が深まる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な授業を進めたい。

内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 14, 実習の復習
- 15, まとめ 解説

評価

ペーパーテスト40点 実習参加度20点 レポート40点によって総合的に評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[教科書] 授業ごとにプリントを作成し配布する。

[推薦書] 小児保健実習 佐藤益子編著 ななみ書房

科目名	児童保健学演習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の現場では、子どもの健康観察は日常時に実施せねばならない。児童保健学演習では児童保健学1の学習を踏まえ、グループ単位で実習形式の授業を行う。乳児の人形を使った身長・体重測定、抱き方、排気の仕方、沐浴実習など体験型の学習である。正しい手洗い方法を知ることが感染予防、食中毒予防などの基本である。熱中症やけがの手当て、事故防止などの知識は、保育現場では欠かせない。この実習を主体的にまじめに取り組むことで、児童保健学2の理解が深まる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な授業を進めたい。

内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 14, 実習の復習
- 15, まとめ 解説

評価

ペーパーテスト40点 実習参加度20点 レポート40点によって総合的に評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[教科書] 授業ごとにプリントを作成し配布する。

[推薦書] 小児保健実習 佐藤益子編著 ななみ書房

科目名	児童保健学演習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

保育の現場では、子どもの健康観察は日常時に実施せねばならない。児童保健学演習では児童保健学1の学習を踏まえ、グループ単位で実習形式の授業を行う。乳児の人形を使った身長・体重測定、抱き方、排気の仕方、沐浴実習など体験型の学習である。正しい手洗い方法を知ることが感染予防、食中毒予防などの基本である。熱中症やけがの手当て、事故防止などの知識は、保育現場では欠かせない。この実習を主体的にまじめに取り組むことで、児童保健学2の理解が深まる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な授業を進めたい。

内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 14, 実習の復習
- 15, まとめ 解説

評価

ペーパーテスト40点 実習参加度20点 レポート40点によって総合的に評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 授業ごとにプリントを作成し配布する。

[推薦書] 小児保健実習 佐藤益子編著 ななみ書房

科目名	児童保健学演習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

保育の現場では、子どもの健康観察は日常時に実施せねばならない。児童保健学演習では児童保健学1の学習を踏まえ、グループ単位で実習形式の授業を行う。乳児の人形を使った身長・体重測定、抱き方、排気の仕方、沐浴実習など体験型の学習である。正しい手洗い方法を知ることが感染予防、食中毒予防などの基本である。熱中症やけがの手当て、事故防止などの知識は、保育現場では欠かせない。この実習を主体的にまじめに取り組むことで、児童保健学2の理解が深まる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な授業を進めたい。

内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 14, 実習の復習
- 15, まとめ 解説

評価

ペーパーテスト40点 実習参加度20点 レポート40点によって総合的に評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 授業ごとにプリントを作成し配布する。

[推薦書] 小児保健実習 佐藤益子編著 ななみ書房

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

授業計画 天候に応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ

第2回：自然との対話 風・光・影 その1

第3回：自然との対話 風・光・影 その2

第4回：自然との対話 風・光・影 その3

第5回：自然との対話 樹木・鳥 その1

第6回：自然との対話 樹木・花 その2

第7回：自然との対話 樹木・虫 その3

第8回：自然との対話 宇宙 その1

第9回：自然との対話 宇宙 その2

第10回：自然の中に生きる その1 水

第11回：自然の中に生きる その2 火

第12回：自然の中に生きる その3 草木

第13回：自然の中に生きる その4 草木

第14回：自然の中に生きる その5 土

第15回：自然の中に生きる その6 土

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳) 「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

授業計画 天候に応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ

第2回：自然との対話 風・光・影 その1

第3回：自然との対話 風・光・影 その2

第4回：自然との対話 風・光・影 その3

第5回：自然との対話 樹木・鳥 その1

第6回：自然との対話 樹木・花 その2

第7回：自然との対話 樹木・虫 その3

第8回：自然との対話 宇宙 その1

第9回：自然との対話 宇宙 その2

第10回：自然の中に生きる その1 水

第11回：自然の中に生きる その2 火

第12回：自然の中に生きる その3 草木

第13回：自然の中に生きる その4 草木

第14回：自然の中に生きる その5 土

第15回：自然の中に生きる その6 土

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳) 「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

授業計画 天候に応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ

第2回：自然との対話 風・光・影 その1

第3回：自然との対話 風・光・影 その2

第4回：自然との対話 風・光・影 その3

第5回：自然との対話 樹木・鳥 その1

第6回：自然との対話 樹木・花 その2

第7回：自然との対話 樹木・虫 その3

第8回：自然との対話 宇宙 その1

第9回：自然との対話 宇宙 その2

第10回：自然の中に生きる その1 水

第11回：自然の中に生きる その2 火

第12回：自然の中に生きる その3 草木

第13回：自然の中に生きる その4 草木

第14回：自然の中に生きる その5 土

第15回：自然の中に生きる その6 土

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳) 「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくことになること、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

授業の目的に示した通り、さまざまな視座の交差統合が重要である。学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さに目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを知り、体感することが目標である。

内容

授業計画 天候に応じて授業形態を変更する。演習にふさわしい服装と心構えで望むこと。

第1回：プロローグ

第2回：自然との対話 風・光・影 その1

第3回：自然との対話 風・光・影 その2

第4回：自然との対話 風・光・影 その3

第5回：自然との対話 樹木・鳥 その1

第6回：自然との対話 樹木・花 その2

第7回：自然との対話 樹木・虫 その3

第8回：自然との対話 宇宙 その1

第9回：自然との対話 宇宙 その2

第10回：自然の中に生きる その1 水

第11回：自然の中に生きる その2 火

第12回：自然の中に生きる その3 草木

第13回：自然の中に生きる その4 草木

第14回：自然の中に生きる その5 土

第15回：自然の中に生きる その6 土

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって、自然とのかかわりを重視した保育に展開できる力や、子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳) 「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、幼稚園教諭、保育士資格を取得するために履修が必要な科目です。保育内容の指導法（健康）へとつながる基礎的な知識と理論を学びます。また、この科目は、子どもの運動についてさらに深く専門的にまなぶ幼児運動論や幼児運動論演習へと発展します。

この講義では、発達の特徴に応じた指導を行うために必要な、生涯発達の視点からとらえた運動発達の段階とその特徴について学びます。

学習目標は、次の3点です。 運動に関する伝統的な発達観と生涯発達の考えかたの違いを理解する。 新生児・乳児期、幼児期・児童期、青年・成人期の運動発達の特徴を理解する。 それぞれの発達の特徴に応じた指導のあり方を理解する。

内容

1	人間にとっての運動の意味
2	体育の目標からみた運動
3	伝統的な発達観と生涯発達から導かれる指導の違い
4	運動の基盤となる身体発達
5	新生児・乳児の運動発達の特徴 1
6	新生児・乳児の運動発達の特徴 2（DVDとビデオの視聴）
7	幼児・児童期の運動発達の特徴 1 運動コントロール能力の急増
8	幼児・児童期の運動発達の特徴 2 基礎的運動パターンの習得
9	幼児・児童期の運動発達の特徴 3 運動遊びの発達
10	幼児・児童期の運動発達の特徴 4 知的発達との関係
11	幼児・児童期の運動発達の特徴 5 人格的発達との関係
12	幼児・児童期の運動指導の基本的な考え方
13	青年・成人期の運動発達の特徴
14	遊びとしての運動の教育的効果
15	まとめ

評価

授業内容のまとめりに提出する課題（80点）、通常の授業態度（20点）。三分の二以上出席することで評価を受けることができます。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】 杉原隆編著 新版幼児の体育 建帛社

必要に応じて資料を配布

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、幼稚園教諭、保育士資格を取得するために履修が必要な科目です。保育内容の指導法（健康）へとつながる基礎的な知識と理論を学びます。また、この科目は、子どもの運動についてさらに深く専門的にまなぶ幼児運動論や幼児運動論演習へと発展します。

この講義では、発達の特徴に応じた指導を行うために必要な、生涯発達の視点からとらえた運動発達の段階とその特徴について学びます。

学習目標は、次の3点です。 運動に関する伝統的な発達観と生涯発達の考えかたの違いを理解する。 新生児・乳児期、幼児期・児童期、青年・成人期の運動発達の特徴を理解する。 それぞれの発達の特徴に応じた指導のあり方を理解する。

内容

1	人間にとっての運動の意味
2	体育の目標からみた運動
3	伝統的な発達観と生涯発達から導かれる指導の違い
4	運動の基盤となる身体発達
5	新生児・乳児の運動発達の特徴 1
6	新生児・乳児の運動発達の特徴 2（DVDとビデオの視聴）
7	幼児・児童期の運動発達の特徴 1 運動コントロール能力の急増
8	幼児・児童期の運動発達の特徴 2 基礎的運動パターンの習得
9	幼児・児童期の運動発達の特徴 3 運動遊びの発達
10	幼児・児童期の運動発達の特徴 4 知的発達との関係
11	幼児・児童期の運動発達の特徴 5 人格的発達との関係
12	幼児・児童期の運動指導の基本的な考え方
13	青年・成人期の運動発達の特徴
14	遊びとしての運動の教育的効果
15	まとめ

評価

授業内容のまとめりに提出する課題（80点）、通常の授業態度（20点）。三分の二以上出席することで評価を受けることができます。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】 杉原隆編著 新版幼児の体育 建帛社

必要に応じて資料を配布

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、幼稚園教諭、保育士資格を取得するために履修が必要な科目です。保育内容の指導法（健康）へとつながる基礎的な知識と理論を学びます。また、この科目は、子どもの運動についてさらに深く専門的にまなぶ幼児運動論や幼児運動論演習へと発展します。

この講義では、発達の特徴に応じた指導を行うために必要な、生涯発達の視点からとらえた運動発達の段階とその特徴について学びます。

学習目標は、次の3点です。 運動に関する伝統的な発達観と生涯発達の考えかたの違いを理解する。 新生児・乳児期、幼児期・児童期、青年・成人期の運動発達の特徴を理解する。 それぞれの発達の特徴に応じた指導のあり方を理解する。

内容

1	人間にとっての運動の意味
2	体育の目標からみた運動
3	伝統的な発達観と生涯発達から導かれる指導の違い
4	運動の基盤となる身体発達
5	新生児・乳児の運動発達の特徴 1
6	新生児・乳児の運動発達の特徴 2（DVDとビデオの視聴）
7	幼児・児童期の運動発達の特徴 1 運動コントロール能力の急増
8	幼児・児童期の運動発達の特徴 2 基礎的運動パターンの習得
9	幼児・児童期の運動発達の特徴 3 運動遊びの発達
10	幼児・児童期の運動発達の特徴 4 知的発達との関係
11	幼児・児童期の運動発達の特徴 5 人格的発達との関係
12	幼児・児童期の運動指導の基本的な考え方
13	青年・成人期の運動発達の特徴
14	遊びとしての運動の教育的効果
15	まとめ

評価

授業内容のまとめりに提出する課題（80点）、通常の授業態度（20点）。三分の二以上出席することで評価を受けることができます。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】 杉原隆編著 新版幼児の体育 建帛社

必要に応じて資料を配布

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどうしたら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、表現力豊かに伝えることができるようにする

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	ボディパーカッションを用いた表現と創作
9	子どもの音楽的発達の理解
10	子どもの歌唱作品・表現法の基礎
11	子どもの歌唱作品・表現法の応用
12	グループ活動の意義と事例研究
13	子どもを対象とした歌唱作品による音楽劇の創作(グループ活動)
14	グループ単位での実践
15	まとめ(グループ単位での作品発表)

評価

音楽鑑賞レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小林美実『音楽リズム』東京書籍、『標準版コールユーブンゲン』全音楽譜出版社

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後藤仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどうしたら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、表現力豊かに伝えることができるようにする

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	ボディパーカッションを用いた表現と創作
9	子どもの音楽的発達の理解
10	子どもの歌唱作品・表現法の基礎
11	子どもの歌唱作品・表現法の応用
12	グループ活動の意義と事例研究
13	子どもを対象とした歌唱作品による音楽劇の創作（グループ活動）
14	グループ単位での実践
15	まとめ（グループ単位での作品発表）

評価

音楽鑑賞レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小林美実『音楽リズム』東京書籍、『標準版コールユーブンゲン』全音楽譜出版社

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後藤仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどうしたら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、表現力豊かに伝えることができるようにする

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	ボディパーカッションを用いた表現と創作
9	子どもの音楽的発達の理解
10	子どもの歌唱作品・表現法の基礎
11	子どもの歌唱作品・表現法の応用
12	グループ活動の意義と事例研究
13	子どもを対象とした歌唱作品による音楽劇の創作（グループ活動）
14	グループ単位での実践
15	まとめ（グループ単位での作品発表）

評価

音楽鑑賞レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小林美実『音楽リズム』東京書籍、『標準版コールユーブンゲン』全音楽譜出版社

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後藤仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、保育者として必須である「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもたちと共に歌うことが多々あるが、そのためにはどうしたら良いのか。その的確な方法を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもと共に楽しみながら歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動を通して作品を創造していく中で、積極性や協調性、コミュニケーション力を養う。

学修目標

- ? 人前でも臆せずに歌うことができる
- ? 保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げる
- ? 歌うことの楽しさを実体験として味わい、表現力豊かに伝えることができるようにする

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	ボディパーカッションを用いた表現と創作
9	子どもの音楽的発達の理解
10	子どもの歌唱作品・表現法の基礎
11	子どもの歌唱作品・表現法の応用
12	グループ活動の意義と事例研究
13	子どもを対象とした歌唱作品による音楽劇の創作(グループ活動)
14	グループ単位での実践
15	まとめ(グループ単位での作品発表)

評価

音楽鑑賞レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小林美実『音楽リズム』東京書籍、『標準版コールユーブンゲン』全音楽譜出版社

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後藤仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 ピアノ技術向上のために個人レッスン形式で行う。学生それぞれのレベルに応じた進度に合わせて、教本を進めていく。

科目の概要 バイエルピアノ教本全曲終了することで単位を修得する。すでに長い経験を持つ学生から初心者の学生まで、幅広い技術層がある。バイエルを終了した者はレベルに応じた授業を進めて行く。

学修目標 初心者はバイエルを終了し、実技試験に合格をすることが目標である。経験者は担当の教員と相談し自由曲を実技試験として受ける。

「音楽基礎」の単位を修得して「音楽基礎」へ進む。「音楽基礎」が習得できない場合は「音楽基礎」を取ることはできない。

内容

後期から開講する授業であるので、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエルを終了しなくてはならないので、予習の時間が長くあることを利用する。

初心者は「バイエルピアノ教則本」を購入し60番までは自習しておく。授業は60番以降の進めてきたところから始める。バイエルにおける自習活動は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は自分で選択する。ただしピアノ関係の教員との相談はいつでも研究室を訪ればその方法の相談はできるので、ぜひ相談してもらいたい。

経験者は、自習してレベルを保つことを進める。

個人レッスンは一人90分で6 - 8人行う。

経験者の教本は担当の教員と授業の最初に相談をして進めていく。

評価

バイエルを終了したものは実技テストを受験できる。バイエル修了者はバイエルの中から指定された曲を弾く。

経験者は担当教員と課題曲を相談して実技試験を受ける。

実技の授業であるから、毎回の家庭学習の充実と、授業に対する熱意とで実技テストの受験が可能となることを注意すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

バイエルを終了していない学生は

「バイエルピアノ教則本(標準版)」全音楽譜出版社

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音楽基礎 において、ピアノ奏法の単位を取得した学生の次へのステップとして置かれた科目である。

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。さらなるピアノ技術の向上を目指す「ピアノ演奏」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

声楽は選択の人数により、個人レッスン・コーラス・その他で声楽担当教員と相談の上で授業を進める。ピアノ・エレクトーンは基本的には個人レッスンであるが、時には連弾などの学習方法も取り入れる。「箏」はグループレッスンを基本としている。

個人個人の学習目標を持って音楽を楽しく広く学習したい。

内容

ピアノ

ピアノは1年後期に単位を取得した学生に、さらなるステップアップを希望する学生に行う。ピアノをさらに楽しむことができるように、個人指導はもちろんのこと、ピアノ連弾や他楽器とのアンサンブルなど、担当教員と相談しながら楽しく進めていきたい。ピアノ演奏に係わる授業としてで、伴奏などは含まない。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

声楽

声楽の中でも個人レッスンの希望者や、コーラス希望など選択した学生数により希望をとりながら進めていく。学生数により可能不可能な内容になってしまうので、声楽担当教員と話し合いをしながら進めることとなるが、基本的に歌に関するテクニク的な面と表現する力をつけることを基本として進めていく。

邦楽

文科省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽を、箏による演奏で邦楽の基本的な学びを進めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで日本文化に目を向けていくことを目的としている。

どの演奏を選んでも自分自身のステップアップを目指した授業内容である。

評価

実技のものであるので、家庭学習の力が大きく自分自身の勉強にかかってくる。競い合う授業ではないが、努力と意欲が必

要で意欲に欠けると思われるような毎回の内容の場合は、評価としての認定が難しい場合がある。
まとめとして、各担当教員のクラスで、かんたんな演奏会形式をとることもある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

全音ピアノピース・全音ピアノ教本など。さらなる教本として、ショパン「ワルツ集」ほか
エレクトーンに関しては、E L 90・E L 900で使用するあらゆるジャンルでの選曲がかのうである。
声楽は「子どものうた集」「童謡集」「コーラス」などを予定している。
邦楽は「わらべ歌集」「古曲」などを使用する。

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接接触して体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な自然物やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、子どもの発達と造形表現に関する知識・技術を習得し、将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について：クレヨン、クレパス
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について：マーキングペン
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について：ローラー
8	身近にある材料を使った表現：紙
9	身近にある材料を使った表現：紙
10	色彩の基礎について
11	色彩の基礎について
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

推薦書

- ・ 東山明 『絵画・製作・造形あそび指導百科』 ひかりのくに
- ・ 阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・ 平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な自然物やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、子どもの発達と造形表現に関する知識・技術を習得し、将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について：クレヨン、クレパス
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について：マーキングペン
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について：ローラー
8	身近にある材料を使った表現：紙
9	身近にある材料を使った表現：紙
10	色彩の基礎について
11	色彩の基礎について
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

推薦書

- ・ 東山明 『絵画・製作・造形あそび指導百科』 ひかりのくに
- ・ 阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・ 平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な自然物やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、子どもの発達と造形表現に関する知識・技術を習得し、将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について：クレヨン、クレパス
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について：マーキングペン
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について：ローラー
8	身近にある材料を使った表現：紙
9	身近にある材料を使った表現：紙
10	色彩の基礎について
11	色彩の基礎について
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

推薦書

- ・ 東山明 『絵画・製作・造形あそび指導百科』 ひかりのくに
- ・ 阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・ 平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

内容

1	ガイダンス（平服、筆記用具持参）
2	心身を解きほぐす...仲良くなるよう
3	自身の身体への認識を深める...身体部位
4	<基本的な運動から身体表現へ> 基本的な運動の理解
5	” 基本的な運動を発展させた遊び
6	” 運動を構成する要因への理解
7	” 運動を発展・展開させていく方法
8	<身近な遊びから身体表現へ> 伝承遊び・集団遊び
9	” 手遊びから全身の表現遊びへ
10	” ~のように動いてみよう
11	” 身近材料から表現遊びへ
12	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
13	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
14	” 大好きな歌から表現遊びへ
15	” 親子の遊び

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

忘れ物、遅刻は減点とする。

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

内容

1	ガイダンス（平服、筆記用具持参）
2	心身を解きほぐす...仲良くなろう
3	自身の身体への認識を深める...身体部位
4	<基本的な運動から身体表現へ> 基本的な運動の理解
5	” 基本的な運動を発展させた遊び
6	” 運動を構成する要因への理解
7	” 運動を発展・展開させていく方法
8	<身近な遊びから身体表現へ> 伝承遊び・集団遊び
9	” 手遊びから全身の表現遊びへ
10	” ~のように動いてみよう
11	” 身近材料から表現遊びへ
12	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
13	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
14	” 大好きな歌から表現遊びへ
15	” 親子の遊び

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

内容

1	ガイダンス（平服、筆記用具持参）
2	心身を解きほぐす...仲良くなろう
3	自身の身体への認識を深める...身体部位
4	<基本的な運動から身体表現へ> 基本的な運動の理解
5	” 基本的な運動を発展させた遊び
6	” 運動を構成する要因への理解
7	” 運動を発展・展開させていく方法
8	<身近な遊びから身体表現へ> 伝承遊び・集団遊び
9	” 手遊びから全身の表現遊びへ
10	” ~のように動いてみよう
11	” 身近材料から表現遊びへ
12	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
13	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
14	” 大好きな歌から表現遊びへ
15	” 親子の遊び

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

内容

1	ガイダンス（平服、筆記用具持参）
2	心身を解きほぐす...仲良くなろう
3	自身の身体への認識を深める...身体部位
4	<基本的な運動から身体表現へ> 基本的な運動の理解
5	” 基本的な運動を発展させた遊び
6	” 運動を構成する要因への理解
7	” 運動を発展・展開させていく方法
8	<身近な遊びから身体表現へ> 伝承遊び・集団遊び
9	” 手遊びから全身の表現遊びへ
10	” ~のように動いてみよう
11	” 身近材料から表現遊びへ
12	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
13	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
14	” 大好きな歌から表現遊びへ
15	” 親子の遊び

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	言語文化表現		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの遊びを豊かに展開していくのに必要な知識・技術の中の、言語表現活動に関わる多層的な児童文化について実際に学ぶ。そもそも児童文化とは何かについての理解を促していきながら、その上で、保育活動への具体的展開を習得するための実践方法を提示していく。

授業のなかでは、子どもが遊びのなかで歌う、遊戯歌、歳時歌、ことば遊び歌、子守唄などから始まり、なぞなぞ、昔話、紙芝居、絵本などの物語性を豊かに内包した言葉の世界を扱う。子どもの遊びやイメージを豊かに育むための環境構成のあり方と保育の展開にも触れて行く。

学修目標

まずは欠席することなく、授業に出席すること。演習科目なので、人前で演じるプレゼンテーションの度胸、技術を身につけること。学生自身の言語能力もさらに深めるため、試験では言語表現力を駆使して筆記試験に臨んでもらいたい。

内容

- 第1回 変化する社会と児童文化
- 第2回 子どもにとっての遊び
- 第3回 保育のなかの遊び
- 第4回 子どもの発達と言語文化
- 第5回 伝承遊びとわらべ唄
- 第6回 伝承遊びで遊んでみましょう【実演】
- 第7回 昔話の世界
- 第8回 さまざまなおはなしの世界（口演童話、ストーリー・テリング、素話など）
- 第9回 おはなしをしてみましょう【実演】
- 第10回 紙芝居の世界
- 第11回 紙芝居を演じてみましょう【実演】
- 第12回 絵本の世界
- 第13回 絵本を読んでみましょう【実演】
- 第14回 年中行事を活かした遊びの展開
- 第15回 生活発表会を活かした遊びの展開

評価

授業への取り組み方20%、試験80パーセントによって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』皆川美恵子・武田京子編著 ななみ書房

科目名	言語文化表現		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの遊びを豊かに展開していくのに必要な知識・技術の中の、言語表現活動に関わる多層的な児童文化について実際に学ぶ。そもそも児童文化とは何かについての理解を促していきながら、その上で、保育活動への具体的展開を習得するための実践方法を提示していく。

授業のなかでは、子どもが遊びのなかで歌う、遊戯歌、歳時歌、ことば遊び歌、子守唄などから始まり、なぞなぞ、昔話、紙芝居、絵本などの物語性を豊かに内包した言葉の世界を扱う。子どもの遊びやイメージを豊かに育むための環境構成のあり方と保育の展開にも触れて行く。

学修目標

まずは欠席することなく、授業に出席すること。演習科目なので、人前で演じるプレゼンテーションの度胸、技術を身につけること。学生自身の言語能力もさらに深めるため、試験では言語表現力を駆使して筆記試験に臨んでもらいたい。

内容

- 第1回 変化する社会と児童文化
- 第2回 子どもにとっての遊び
- 第3回 保育のなかの遊び
- 第4回 子どもの発達と言語文化
- 第5回 伝承遊びとわらべ唄
- 第6回 伝承遊びで遊んでみましょう【実演】
- 第7回 昔話の世界
- 第8回 さまざまなおはなしの世界（口演童話、ストーリー・テリング、素話など）
- 第9回 おはなしをしてみましょう【実演】
- 第10回 紙芝居の世界
- 第11回 紙芝居を演じてみましょう【実演】
- 第12回 絵本の世界
- 第13回 絵本を読んでみましょう【実演】
- 第14回 年中行事を活かした遊びの展開
- 第15回 生活発表会を活かした遊びの展開

評価

授業への取り組み方20%、試験80パーセントによって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』皆川美恵子・武田京子編著　ななみ書房

科目名	言語文化表現		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの遊びを豊かに展開していくのに必要な知識・技術の中の、言語表現活動に関わる多層的な児童文化について实际的に学ぶ。そもそも児童文化とは何かについての理解を促していきながら、その上で、保育活動への具体的展開を習得するための実践方法を提示していく。

授業のなかでは、子どもが遊びのなかで歌う、遊戯歌、歳時歌、ことば遊び歌、子守唄などから始まり、なぞなぞ、昔話、紙芝居、絵本などの物語性を豊かに内包した言葉の世界を扱う。子どもの遊びやイメージを豊かに育むための環境構成のあり方と保育の展開にも触れて行く。

学修目標

まずは欠席することなく、授業に出席すること。演習科目なので、人前で演じるプレゼンテーションの度胸、技術を身につけること。学生自身の言語能力もさらに深めるため、試験では言語表現力を駆使して筆記試験に臨んでもらいたい。

内容

- 第1回 変化する社会と児童文化
- 第2回 子どもにとっての遊び
- 第3回 保育のなかの遊び
- 第4回 子どもの発達と言語文化
- 第5回 伝承遊びとわらべ唄
- 第6回 伝承遊びで遊んでみましょう【実演】
- 第7回 昔話の世界
- 第8回 さまざまなおはなしの世界（口演童話、ストーリー・テリング、素話など）
- 第9回 おはなしをしてみましょう【実演】
- 第10回 紙芝居の世界
- 第11回 紙芝居を演じてみましょう【実演】
- 第12回 絵本の世界
- 第13回 絵本を読んでみましょう【実演】
- 第14回 年中行事を活かした遊びの展開
- 第15回 生活発表会を活かした遊びの展開

評価

授業への取り組み方20%、試験80パーセントによって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』皆川美恵子・武田京子編著　ななみ書房

科目名	言語文化表現		
担当教員名	戸次 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの遊びを豊かに展開していくのに必要な知識・技術の中の、言語表現活動に関わる多層的な児童文化について実際に学ぶ。そもそも児童文化とは何かについての理解を促していきながら、その上で、保育活動への具体的展開を習得するための実践方法を提示していく。

授業のなかでは、子どもが遊びのなかで歌う、遊戯歌、歳時歌、ことば遊び歌、子守唄などから始まり、なぞなぞ、昔話、紙芝居、絵本などの物語性を豊かに内包した言葉の世界を扱う。子どもの遊びやイメージを豊かに育むための環境構成のあり方と保育の展開にも触れて行く。

学修目標

まずは欠席することなく、授業に出席すること。演習科目なので、人前で演じるプレゼンテーションの度胸、技術を身につけること。学生自身の言語能力もさらに深めるため、試験では言語表現力を駆使して筆記試験に臨んでもらいたい。

内容

- 第1回 変化する社会と児童文化
- 第2回 子どもにとっての遊び
- 第3回 保育のなかの遊び
- 第4回 子どもの発達と言語文化
- 第5回 伝承遊びとわらべ唄
- 第6回 伝承遊びで遊んでみましょう【実演】
- 第7回 昔話の世界
- 第8回 さまざまなおはなしの世界（口演童話、ストーリー・テリング、素話など）
- 第9回 おはなしをしてみましょう【実演】
- 第10回 紙芝居の世界
- 第11回 紙芝居を演じてみましょう【実演】
- 第12回 絵本の世界
- 第13回 絵本を読んでみましょう【実演】
- 第14回 年中行事を活かした遊びの展開
- 第15回 生活発表会を活かした遊びの展開

評価

授業への取り組み方20%、試験80パーセントによって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『児童文化 子どものはあわせを考える学びの森』皆川美恵子・武田京子編著　ななみ書房

科目名	歌唱演習		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、音楽基礎（歌唱法）の応用編として、保育現場における音楽活動に必要な歌唱表現法をより発展させた形で学ぶ。

科目の概要

単に歌を歌うだけではなく、身体表現としての歌唱法を探求し自己表現力を高めるとともに、保育現場で必要とされる表現方法を獲得する。

学修目標

- ? 具体的かつ実践的な音楽表現の探求と開発
- ? 作品の本質を理解し、効果的な表現方法を自ら考え表現する
- ? グループ活動を通して表現する楽しさを実体験として味わい、同時に適切な人間関係を構築する

内容

1	ガイダンス
2	発声法と呼吸法
3	声と音感
4	『歌の本』を用いて（表現方法・レパートリーの拡充）
5	手遊び作品とは
6	手遊び作品の練習と発表
7	合奏の意義と手作り楽器の製作
8	手作り楽器の製作と試奏
9	手作り楽器を用いた作品の練習と発表
10	合奏曲の楽譜作成
11	音楽・歌唱を用いた作品づくり
12	グループ単位での実践
13	グループ単位での作品発表
14	発表を終えて（自己評価と反省）
15	まとめ

評価

歌唱試験（40％）、グループ活動への取り組み（60％）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

必要に応じて授業中に指示します。プリント配布。

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後藤仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、加宮葵『子どもが音楽を好きになるとき』音楽之友社

科目名	歌唱演習		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、音楽基礎（歌唱法）の応用編として、保育現場における音楽活動に必要な歌唱表現法をより発展させた形で学ぶ。

科目の概要

単に歌を歌うだけではなく、身体表現としての歌唱法を探求し自己表現力を高めるとともに、保育現場で必要とされる表現方法を獲得する。

学修目標

- ? 具体的かつ実践的な音楽表現の探求と開発
- ? 作品の本質を理解し、効果的な表現方法を自ら考え表現する
- ? グループ活動を通して表現する楽しさを実体験として味わい、同時に適切な人間関係を構築する

内容

1	ガイダンス
2	発声法と呼吸法
3	声と音感
4	『歌の本』を用いて（表現方法・レパートリーの拡充）
5	手遊び作品とは
6	手遊び作品の練習と発表
7	合奏の意義と手作り楽器の製作
8	手作り楽器の製作と試奏
9	手作り楽器を用いた作品の練習と発表
10	合奏曲の楽譜作成
11	音楽・歌唱を用いた作品づくり
12	グループ単位での実践
13	グループ単位での作品発表
14	発表を終えて（自己評価と反省）
15	まとめ

評価

歌唱試験（40％）、グループ活動への取り組み（60％）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

必要に応じて授業中に指示します。プリント配布。

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後藤仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、加宮葵『子どもが音楽を好きになるとき』音楽之友社

科目名	ミュージック・クリエイション		
担当教員名	金勝 裕子、藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園・保育園での音楽活動として、歌を歌ったり音楽遊びを保育の中で取り上げていくことは不可欠なことである。ピアノ技術の向上や音楽活動の伴奏に関しては他の授業で行っており、個人的なレベルアップの学ぶ機会は設けてある。そこでここでは「子どもの合奏」や「子どもの音楽あそび」などについて、保育者としてどのように活動していくべきかを考えながらグループで考えながら音楽的な価値観を養うことを目的とする。

市販の合奏書籍をそのまま保育に下ろすというようなことはせずに、子どもの本来の力や、子どもにとっての合奏とは何かなど子どもの身体的な発達も含めて、音楽を行っていく意味などを話し合っ活動に下ろしていくという授業を行う。また、「音楽あそび」も「手あそび」「わらべうた」などから、あそびを覚えることよりそのものの研究をしながら、子どもにとっての「音楽あそび」を考えていきたい。

園活動の中で、歌を歌う活動をもう少し広げた簡単な歌の活動を考えていく。子どもが歌で表現することを楽しめる活動の展開を考えていく。

内容

- 園活動で使用する簡易楽器について、子どもの発達に合わせて楽器をどのように楽しむかということにとりくむ
- 年齢に応じた楽器演奏を研究しつつ組み立てていく
- グループで考えをまとめて活動報告をして行く
- 音楽あそびを発達から考えて分類する
- 遊びから育つもの、子どもの発達を刺激するものなどを考え、活動にして行く
- 音楽活動としての子どものうたのジャンルを試みていく
- 集団の活動としての「こどものうた」を組み立てる

以上の音楽活動を、選択人数により全て活動するか、ジャンル別の活動につなげるかを検討しながら、園生活での音楽活動を具体化して行う授業内容とする。

評価

- グループ活動中心であるので、全員が役割を担い活動を盛り上げていくことを評価したい。
- 積極的に意見を出しあい、授業に参加することで自分の力を育てることも評価につなげたい。
- まとまった活動ごとに発表をして行く

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は特に使用しない。

推薦書：佐藤千賀子「合奏楽譜百科」ひかりのくに

福音館書店「にほんのわらべうた」

科目名	ミュージック・クリエイション		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園・保育園での音楽活動として、歌を歌ったり音楽遊びを保育の中で取り上げていくことは不可欠なことである。ピアノ技術の向上や音楽活動の伴奏に関しては他の授業で行っており、個人的なレベルアップの学ぶ機会は設けてある。そこでここでは「子どもの合奏」や「子どもの音楽あそび」などについて、保育者としてどのように活動していくべきかを考えながらグループで考えながら音楽的な価値観を養うことを目的とする。

市販の合奏書籍をそのまま保育に下ろすというようなことはせずに、子どもの本来の力や、子どもにとっての合奏とは何かなど子どもの身体的な発達も含めて、音楽を行っていく意味などを話し合っ活動に下ろしていくという授業を行う。また、「音楽あそび」も「手あそび」「わらべうた」などから、あそびを覚えることよりそのものの研究をしながら、子どもにとっての「音楽あそび」を考えていきたい。

園活動の中で、歌を歌う活動をもう少し広げた簡単な歌の活動を考えていく。子どもが歌で表現することを楽しめる活動の展開を考えていく。

内容

- 園活動で使用する簡易楽器について、子どもの発達に合わせて楽器をどのように楽しむかということにとりくむ
- 年齢に応じた楽器演奏を研究しつつ組み立てていく
- グループで考えをまとめて活動報告をして行く
- 音楽あそびを発達から考えて分類する
- 遊びから育つもの、子どもの発達を刺激するものなどを考え、活動にして行く
- 音楽活動としての子どものうたのジャンルを試みていく
- 集団の活動としての「こどものうた」を組み立てる

以上の音楽活動を、選択人数により全て活動するか、ジャンル別の活動につなげるかを検討しながら、園生活での音楽活動を具体化して行う授業内容とする。

評価

- グループ活動中心であるので、全員が役割を担い活動を盛り上げていくことを評価したい。
- 積極的に意見を出しあい、授業に参加することで自分の力を育てることも評価につなげたい。
- まとまった活動ごとに発表をして行く

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は特に使用しない。

推薦書：佐藤千賀子「合奏楽譜百科」ひかりのくに

福音館書店「にほんのわらべうた」

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名	金勝 裕子、藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園・保育園での音楽活動として、歌を歌ったり音楽遊びを保育の中で取り上げていくことは不可欠なことである。ピアノ技術の向上や音楽活動の伴奏に関しては他の授業で行っており、個人的なレベルアップの学ぶ機会は設けてある。そこでここでは「子どもの合奏」や「子どもの音楽あそび」などについて、保育者としてどのように活動していくべきかを考えながらグループで考えながら音楽的な価値観を養うことを目的とする。

市販の合奏書籍をそのまま保育に下ろすというようなことはせずに、子どもの本来の力や、子どもにとっての合奏とは何かなど子どもの身体的な発達も含めて、音楽を行っていく意味などを話し合っ活動に下ろしていくという授業を行う。また、「音楽あそび」も「手あそび」「わらべうた」などから、あそびを覚えることよりそのものの研究をしながら、子どもにとっての「音楽あそび」を考えていきたい。

園活動の中で、歌を歌う活動をもう少し広げた簡単な歌の活動を考えていく。子どもが歌で表現することを楽しめる活動の展開を考えていく。

内容

- 園活動で使用する簡易楽器について、子どもの発達に合わせて楽器をどのように楽しむかということにとりくむ
- 年齢に応じた楽器演奏を研究しつつ組み立てていく
- グループで考えをまとめて活動報告をして行く
- 音楽あそびを発達から考えて分類する
- 遊びから育つもの、子どもの発達を刺激するものなどを考え、活動にして行く
- 音楽活動としての子どものうたのジャンルを試みていく
- 集団の活動としての「こどものうた」を組み立てる

以上の音楽活動を、選択人数により全て活動するか、ジャンル別の活動につなげるかを検討しながら、園生活での音楽活動を具体化して行う授業内容とする。

評価

- グループ活動中心であるので、全員が役割を担い活動を盛り上げていくことを評価したい。
- 積極的に意見を出しあい、授業に参加することで自分の力を育てることも評価につなげたい。
- まとまった活動ごとに発表をして行く

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は特に使用しない。

推薦書：佐藤千賀子「合奏楽譜百科」ひかりのくに

福音館書店「にほんのわらべうた」

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園・保育園での音楽活動として、歌を歌ったり音楽遊びを保育の中で取り上げていくことは不可欠なことである。ピアノ技術の向上や音楽活動の伴奏に関しては他の授業で行っており、個人的なレベルアップの学ぶ機会は設けてある。そこでここでは「子どもの合奏」や「子どもの音楽あそび」などについて、保育者としてどのように活動していくべきかを考えながらグループで考えながら音楽的な価値観を養うことを目的とする。

市販の合奏書籍をそのまま保育に下ろすというようなことはせずに、子どもの本来の力や、子どもにとっての合奏とは何かなど子どもの身体的な発達も含めて、音楽を行っていく意味などを話し合っ活動に下ろしていくという授業を行う。また、「音楽あそび」も「手あそび」「わらべうた」などから、あそびを覚えることよりそのものの研究をしながら、子どもにとっての「音楽あそび」を考えていきたい。

園活動の中で、歌を歌う活動をもう少し広げた簡単な歌の活動を考えていく。子どもが歌で表現することを楽しめる活動の展開を考えていく。

内容

- 園活動で使用する簡易楽器について、子どもの発達に合わせて楽器をどのように楽しむかということにとりくむ
- 年齢に応じた楽器演奏を研究しつつ組み立てていく
- グループで考えをまとめて活動報告をして行く
- 音楽あそびを発達から考えて分類する
- 遊びから育つもの、子どもの発達を刺激するものなどを考え、活動にして行く
- 音楽活動としての子どものうたのジャンルを試みていく
- 集団の活動としての「こどものうた」を組み立てる

以上の音楽活動を、選択人数により全て活動するか、ジャンル別の活動につなげるかを検討しながら、園生活での音楽活動を具体化して行う授業内容とする。

評価

- グループ活動中心であるので、全員が役割を担い活動を盛り上げていくことを評価したい。
- 積極的に意見を出しあい、授業に参加することで自分の力を育てることも評価につなげたい。
- まとまった活動ごとに発表をして行く

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は特に使用しない。

推薦書：佐藤千賀子「合奏楽譜百科」ひかりのくに

福音館書店「にほんのわらべうた」

科目名	造形発達と表現		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳児から児童に至るまでの子どもの発達やその特性を理解し、その生育にいかに関わることが望ましいかについて学ぶことが主眼である。

その一つの視座として「子どもの造形行動を通し、その発達や特性を知る」ことは具体的な学びとなる。

科目の概要

人間が生きる手段として表現行動は重要である。その表現行動のひとつとして造形表現は欠くことができない行動である。その造形表現の行動は乳幼児・児童と大人と共通した行動もあれば、大きく異なる行動もある。そうした同一性と異文化性を持っていることを認識することは乳幼児・児童教育の立場だけでなく、ひろく人間の営みとして理解することになり重要である。

学修目標

そのために乳幼児の造形表現に潜む意味や特徴的な表現の意味を学び、幼児期から児童期の発達過程について学び、その表現をどう読み取るのか、どのような援助方法や対応があるのか...について体得していくことがねらいである。

内容

子どもたちの実態をスライドやビデオなどで知ることや、実際の幼児画を見るなど具体的な資料を基に、観察・鑑賞・検証・考察を繰り返して、直接体験的に認識を積み上げながら学ぶ。つまり、子どもたちの独特な表現法やその読み取り方を体得し、適切な援助の仕方を体得することである。そうした中で大人との共通性（同一性）もおのずと理解されることになる。

1～2 1. 表と現と 「乳幼児独特の造形表現法について」

3～5 2. 幼児画の発達段階

- ・描き始めのころ（Scribble期・1～2歳ころ）
- ・伝達の喜び（象徴期・3～4歳ころ）

6～10 3. 幼児・児童画の特徴 「子どもの絵の読み取り方」

- ・共感する意義とそのポイント

11～15 4. 気になる、心配になる絵への理解と対応

- ・ストロークのもつ意味
- ・色彩心理との関わり

授業中に示した子どもの絵をデジタルカメラで撮影し、分類し資料にする。

評価

講義と実習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲(40%)を評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	造形発達と表現		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳児から児童に至るまでの子どもの発達やその特性を理解し、その生育にいかに関わることが望ましいかについて学ぶことが主眼である。

その一つの視座として「子どもの造形行動を通し、その発達や特性を知る」ことは具体的な学びとなる。

科目の概要

人間が生きる手段として表現行動は重要である。その表現行動のひとつとして造形表現は欠くことができない行動である。その造形表現の行動は乳幼児・児童と大人と共通した行動もあれば、大きく異なる行動もある。そうした同一性と異文化性を持っていることを認識することは乳幼児・児童教育の立場だけでなく、ひろく人間の営みとして理解することになり重要である。

学修目標

そのために乳幼児の造形表現に潜む意味や特徴的な表現の意味を学び、幼児期から児童期の発達過程について学び、その表現をどう読み取るのか、どのような援助方法や対応があるのか...について体得していくことがねらいである。

内容

子どもたちの実態をスライドやビデオなどで知ることや、実際の幼児画を見るなど具体的な資料を基に、観察・鑑賞・検証・考察を繰り返して、直接体験的に認識を積み上げながら学ぶ。つまり、子どもたちの独特な表現法やその読み取り方を体得し、適切な援助の仕方を体得することである。そうした中で大人との共通性（同一性）もおのずと理解されることになる。

1～2 1. 表と現と 「乳幼児独特の造形表現法について」

3～5 2. 幼児画の発達段階

- ・描き始めのころ（Scribble期・1～2歳ころ）
- ・伝達の喜び（象徴期・3～4歳ころ）

6～10 3. 幼児・児童画の特徴 「子どもの絵の読み取り方」

- ・共感する意義とそのポイント

11～15 4. 気になる、心配になる絵への理解と対応

- ・ストロークのもつ意味
- ・色彩心理との関わり

授業中に示した子どもの絵をデジタルカメラで撮影し、分類し資料にする。

評価

講義と実習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲(40%)を評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書平田・小野編著「乳幼児の造形表現」保育出版社刊